

ガーナ

2022年2月17日ドラフト作成

(中略)

2024年5月13日更新

2024年7月11日更新

2024年8月29日最終更新

※更新した項目に更新日を記載しています。

| | |
|--|----|
| 1. 一般情報 | 2 |
| (1) 地理・人口 | 2 |
| (2) 内政 <2022年4月7日更新> | 2 |
| 2. 人権状況 <2024年5月13日更新> | 3 |
| 3. 関連する政治組織等、政治活動／政府批判（労働運動含む）の取扱い | 5 |
| (1) 政府への反対 <2024年5月13日更新> | 5 |
| (2) 西トーゴランド分離独立運動 <2022年4月7日更新> | 6 |
| 4. ジェンダー、DV および子ども | 7 |
| (1) 女性 | 7 |
| (2) FGM | 8 |
| (3) 児童婚 | 10 |
| 5. LGBT | 11 |
| (1) 法制度的な枠組み <2024年5月13日更新> | 11 |
| (2) 国家当局による性的マイノリティの取扱い <2024年5月13日更新> | 13 |
| (3) 社会における性的マイノリティの取扱い <2024年5月13日更新> | 19 |
| 6. 汚職、非国家主体による犯罪、国家による被害者の保護 | 23 |
| (1) 治安当局の汚職・犯罪 <2024年5月13日更新> | 23 |
| (2) 対立政党間の暴力 <2024年5月13日更新> | 24 |
| (3) 国家保護へのアクセス | 26 |
| (4) 国内避難選択の可能性 | 29 |
| 7. 兵役、強制徴集（非国家主体の） | 31 |
| 8. 司法制度・刑事手続 | 31 |
| 9. 警察・治安部隊（刑務所等の状況含む） | 31 |
| (1) 刑務所の状況 | 31 |
| 10. 報道の自由 | 31 |
| 11. 宗教の自由 | 33 |

12. 国籍、民族および人種33

 (1) 民族33

 (2) 北部の諸民族 <2024 年 7 月 11 日更新>35

 (3) 北部における民族対立 <2024 年 7 月 11 日更新>39

 (4) 首長位の継承 <2024 年 8 月 29 日追加>48

13. 出入国および移動の自由49

略称50

1. 一般情報

(1) 地理・人口

ア 外務省「[ガーナ 基礎データ](#)」(2021 年 3 月 17 日)

| | |
|------|--------------------------------------|
| 4 民族 | アカン、ガ、エベ、ダゴンバ、マンプルシ他 |
| 5 言語 | 英語（公用語）、各民族語 |
| 6 宗教 | 国民の約 70%がキリスト教徒、イスラム教約 17%、その他伝統的宗教等 |

イ CIA「[ワールドファクトブック-ガーナ](#)」(2021 年 1 月 4 日閲覧)

| | |
|------------|--|
| <u>民族：</u> | Akan 47.5%, モール・ダグボン [Mole-Dagbon] 16.6%, Ewe 13.9%, Ga-Dangme 7.4%, Gurma 5.7%, Guan 3.7%, Grusi 2.5%, Mande 1.1%, その他 1.4% (2010 年推計) |
| <u>言語：</u> | Asante 16%, Ewe 14%, Fante 11.6%, Boron (Brong) 4.9%, ダゴンバ [Dagomba] 4.4%, Dangme 4.2%, Dagarte (Dagaba) 3.9%, Kokomba 3.5%, Akyem 3.2%, Ga 3.1%, その他 31.2% (2010 年推計) |
| | 備考：英語が公式言語 |
| <u>宗教：</u> | キリスト教 71.2% (ペンテゴスト派／カリスマ運動派 28.3%, プロテスタント 18.4%, カトリック 13.1%, その他 11.4%), イスラム教 17.6%, 伝統宗教 5.2%, その他 0.8%, 無宗教 5.2% (2010 年推計) |

(2) 内政

<2022 年 4 月 7 日更新>

ア 外務省「[ガーナ 基礎データ](#)」(2021 年 3 月 17 日)

1957年の独立から1981年のローリングス政権発足までの25年間に4回のクーデターを含め、頻繁に政権交代が繰り返された。1990年代に入って民主化が進み1992年、1996年に複数政党制の下で平和裡に大統領選挙が行われ、ローリングス大統領の指導の下で長期にわたる政治的安定を享受した。ローリングス大統領は憲法の三選禁止規定を遵守し、2000年12月の大統領選挙には出馬せず、新愛国党（NPP）のクフォー候補が選出され、翌2001年1月に正式に大統領に就任した。これによりガーナの歴史上初めて、選挙による与野党間の政権交代が平和裡に実現した形となった。2008年、国家民主会議（NDC）のミルズ大統領が選出されたが、2012年7月、同大統領が逝去したことを受け、憲法の規定に従い、マハマ副大統領が大統領に就任した。2012年12月、大統領選挙が行われ、マハマ大統領が当選した。

2016年12月、大統領選挙が行われ、NPPのアクフォ＝アド候補（元外相）が当選し、平和裏に政権交代が行われた。

2020年12月、大統領選挙が実施された結果、NPPのアクフォ＝アド大統領が再選され、2021年1月から2期目を務めている。

イ OFPRA「[ガーナ：「西トーゴランド」の分離独立運動 \(Ghana: Les mouvements sécessionnistes du "Togoland occidental"\)](#)」(2021年10月14日)

トーゴランドは、旧ドイツ保護領で、1919年に国際連盟によってフランス領（東部）とイギリス領（西部）に領土が分割・割譲された〔脚注1〕。1956年にフランス領トーゴ（現トーゴ）が独立し、1957年の住民投票でイギリス領ゴールドコースト（現ガーナ）に併合された〔脚注2〕。

英領トーゴの住民の大多数がこの再併合に賛成したのに対し、南部のエウエ族の一部では反対していた〔脚注3〕。トーゴランドの再統一を目指す分離主義運動は、早くも1972年にエウエ族のグループ「西トーゴランド民族解放運動」（NLMWT）によって開始された〔脚注4〕。この運動は、1976年にガーナ当局によって活動が禁止された〔脚注5〕。

現在の西トーゴは、人口400万人の地域である。分離派の主張する領土はトーゴとガーナの間に位置する。ヴォルタ州、オティ州、北部地域、北東部地域、上東部地域を含む〔脚注6〕。

…

※ 上記の訳文は、DeepL.com（無料版）による翻訳を基に修正を加えたものです。

2. 人権状況

<2024年5月13日更新>

ア ●米国国務省「[人権状況報告2023年—ガーナ](#)」(2024年4月22日)

Significant human rights issues included credible reports of: cruel, inhuman, or degrading

treatment or punishment by the government or on behalf of the government; arbitrary arrest or detention; serious restrictions on freedom of expression and media freedom, including violence or threats of violence against journalists and unjustified arrests or prosecutions of journalists; refoulement of refugees to a country where they would face torture or persecution; serious government corruption; extensive gender-based violence, including domestic or intimate partner violence and female genital mutilation; laws criminalizing consensual same-sex sexual conduct between adults, although not fully enforced; crimes involving violence or threats of violence targeting lesbian, gay, bisexual, transgender, queer, or intersex persons; and crimes involving violence or threats of violence targeting persons with disabilities.

The government took minimal steps to identify and punish officials who may have committed human rights abuses.

イ 米国国務省「[人権状況報告 2020年 - ガーナ \(仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2021年3月30日)

重大な人権上の問題は次の通りである。政府又はその職員による恣意的もしくは不法な殺害。政府又はその職員による残酷な、非人道的な、又は品位を傷つける扱いもしくは処罰。苛酷で生命を脅かす刑務所の状況。恣意的な逮捕又は拘禁。ジャーナリストに対する暴力及び暴力の脅威、又は不当な逮捕もしくは起訴を含めた報道に対する重大な制限。重大な腐敗行為。女性への暴力に関する調査及び説明責任の不足。施行される場合はまれであるものの、成人どうしの合意に基づく同性間性行為を罰する法律の存在。最悪の形態での児童労働の存在。

政府は、治安部隊員又は政府内のいずれかの職員であるかどうかにかかわらず、役人による不正行為及び職権乱用に対処する措置を取った。しかし、刑罰逃れは依然として問題になっていた。

ウ 米国国務省「[人権状況報告 2019年 - ガーナ \(仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2020年3月11日)

重大な人権問題としては、政府又は政府職員による恣意的若しくは違法な殺害、苛酷かつ生命を脅かす刑務所の状況、暴行、殺害の脅迫などのジャーナリストに対する暴力（1人のジャーナリストが銃撃され、殺害された）、報道の自由に対する抑圧（複数の逮捕、あるいは認可に関連する不正を表向き理由とした2つのラジオ局の閉鎖など）、政府のあらゆる部門で蔓延している汚職、女性や女兒に対する暴力犯罪（政府の怠慢が大いに寄与している）、障害児の殺害、同性同士の性行為の違法化（ただし犯罪としての取り締まりは稀である）、並びに強制的児童労働といったものがある。

政府は、治安部隊及び政府のその他の機関の職員の汚職や職権乱用に対処するために、何らかの措置を講じていた。例えば、政府の説明責任及び透明性の向上を

目指す情報開示法案 (Right to Information Bill) が 2019 年 5 月に可決され、成立した。しかし、政府職員が法を犯しても罪に問われない状態は、引き続き問題だった。

エ ●フリーダムハウス [「世界の自由 2019 年版 - ガーナ」](#) (2019 年 2 月 4 日)

Since 1992, Ghana has held competitive multiparty elections and undergone peaceful transfers of power between the two main political parties. Although the country has a relatively strong record of upholding civil liberties, discrimination against women and LGBT (lesbian, gay, bisexual, and transgender) people persists. There are some weaknesses in judicial independence and the rule of law, and political corruption presents challenges to government performance.

...

オ ●A I [「年次報告 2017 年/2018 年 - ガーナ」](#) refworld (2018 年 2 月 22 日)

Concerns were raised around unfair trials and poor prison conditions for people on death row, as well as the shackling of people with psychosocial disabilities. LGBTI people continued to face discrimination, violence and police harassment.

...

3. 関連する政治組織等、政治活動／政府批判 (労働運動含む) の取扱い

(1) 政府への反対

<2024 年 5 月 13 日更新>

ア ●英国内務省 [「国別政策及び情報ノート ガーナ:背景情報\(国内避難を含む\)、1.0 版」](#) (2020 年 9 月)

18. Political opposition

18.1.1 Freedom House assessed Ghana to be ‘free’¹³³, based on its analysis of the country’s civil and political rights in 2018. It is also observed that

...

‘Although the election and its immediate aftermath were peaceful, the campaign period was contentious. There were several reports of clashes between NPP and NDC supporters, as well as attacks on EC officials. Moreover, civil society representatives raised concerns about what they claimed were alarming levels of hate speech used by politicians, as well as alleged abuse of state resources. [...]

‘The right to peaceful assembly is constitutionally guaranteed and generally respected. Permits are not required for meetings or demonstrations.’¹³⁴

18.1.2 The USSD human rights report for 2019, noted:

...

‘In January [2019] violence between government security forces and alleged political vigilantes disrupted a by-election held to fill a parliamentary seat in the constituency of Ayawaso West Wuogon in Accra. Gunfire erupted near a polling station and the home of the opposition candidate, leaving 18 persons injured. The opposition candidate pulled out of the race on the day of the election in response to the incident, and the Electoral Commission (EC) subsequently announced that the NPP candidate had won the election. After the president called for a rapid inquiry into the matter, the government set up the Emile Short Commission of Inquiry to investigate the violence. In September the commission published its report online. The government agreed or partly agreed with approximately 40 percent of the recommendations. In September the president signed into law the Vigilantism and Related Offenses Act, which stipulates 10- to 15-year sentences for anyone convicted of soliciting or engaging in political vigilante activity.

...

イ 米国国務省「[人権状況報告 2023 年－ガーナ](#)」(2024 年 4 月 22 日)

a 言論及び報道の自由

憲法と法律は言論及び報道の自由について定めているが、政府はこれらの権利をおおむね尊重していた。

...

b 平和的集会及び結社の自由

憲法と法律は平和的集会と結社の自由を定めており、政府はこれらの自由をおおむね尊重していた。

...

(2) 西トーゴランド分離独立運動

<2022 年 4 月 7 日更新>

ア OFPRA「[「ガーナ：「西トーゴランド」の分離独立運動 \(Ghana: Les mouvements sécessionnistes du "Togoland occidental"\)](#)」(2021 年 10 月 14 日)

概要 西トーゴランドは、2016 年以降、ガーナの分離独立運動により独立宣言が繰り返されている地域である。ホームランド・スタディ・グループ財団 (HSGF) は、西トーゴランドの独立運動家らを糾合する主要な組織と見なされている。しかし、いくつかの分離主義派組織が、この地域の独立を目指して孤立した行動をとっている。HSGF のリーダーは平和的に戦うと主張し、暴力的な行動への関与を否定しているが、その活動家らは繰り返し当局の標的となっており、恣意的な逮捕にさらされている。

2. 分離独立派

ガーナの西トーゴランドでは、少なくとも10年以上前から分離独立運動が存在していた [脚注 13]。複数の情報筋によると、独立運動家は西トーゴランドの支持者をまとめる組織、HSGF (ホームランド・スタディ・グループ財団) の下に組織されたとのことである [脚注 14]。

しかし、ニュースメディア「Modern Ghana」は、2つの別々の分離独立旗の存在を指摘しており、西トーゴランドの承認に向けて、複数のグループが別々に行動を起こすことが示唆されている [脚注 15]。

ホーのラジオ局のインタビューで、HSGF の代表は「西トーゴランドの独立のために戦っている他のグループは HSGF の系列で、彼らは若く、独立に向けた迅速な行動を必要としたために別れた」と述べている [脚注 16]。

2.1. Homeland Study Group Foundation (HSGF)

HSGF は、西トーゴランドの人々の市民権・政治権を守ることを目的とした NGO である。ボルタ地方のホーを拠点とし、1994年に現リーダーであるチャールズ・コルミ・クゾルジ、通称パパビ・ホグベデトルによって創設された。2016年以降、西トーゴランドの支持者を集めた独立派の中心的な組織とされている。

この団体の活動は当局によって禁止されているとされているが、運動のリーダーは反論し、公式文書がない限り、その活動は合法であると主張している。TV3 ニュースのインタビューで、「私は禁止されたグループに属していると非難されているが、私は88歳で、政府によって禁止されたグループや組織を見たことがない。」と述べている。

2019年5月8日、当局によるとトーゴ西部の独立宣言を準備することを目的とした会合で、運動の指導者とされる者が逮捕された。彼らは、国歌の草案、憲法の文章、独立記念のTシャツを所持して逮捕された。彼らはまた、民兵を結成したとも非難されたが、リーダーのチャールズ・コルミ・クゾルジは、地域の独立のための平和的闘争を主導していると主張し、繰り返し否定している。

...

ガーナ当局は、2021年7月まで逃亡者とされた Charles Kormi Kudzordzi を含むグループのメンバーおよびリーダーに対して法的措置を講じた。

2020年9月、同組織の支持者が当局の標的となり、2020年9月25日と29日にヴォルタ地方で発生した襲撃事件の犯人として告発された。指導者の Charles Kormi Kudzordzi は暴力を非難し、HSGF の関与を否定しました。支持者の逮捕を受け、治安部隊に協力したという。

...

※ 上記の訳文は、DeepL.com (無料版) による翻訳を基に修正を加えたものです。

4. ジェンダー、DV および子ども

(1) 女性

ア ●フリーダムハウス「[世界の自由 2019 年版 - ガーナ](#)」(2019 年 2 月 4 日)

Despite equal rights under the law, women suffer societal discrimination, especially in rural areas, where their opportunities for education and employment are limited. However, women’s enrollment in universities is increasing. …

Domestic violence and rape are serious problems, and harmful traditional practices including female genital mutilation or cutting and early or forced marriage persist in some regions. The government has worked to combat gender-based violence over the past decade, including by expanding the police’s domestic violence and victim support units and creating special courts for gender-based violence, though such services reportedly suffer from insufficient resources.

イ ●A I「[Shut Down for Speaking Out](#)」(2017 年 5 月 16 日)

Culturally, human rights defenders may find themselves attacked for stepping beyond dominant social norms and gender identities. This is the case for women human rights defenders and the defenders of the rights of Lesbians, Gays, Bisexual, Transgender and Intersex people (LGBTI) who are victims of abuses committed not only by state entities, but also by private actors. …

…the region’s growing insecurity linked to armed groups has provided both the political argument - ‘national security’ - and, in some cases, new legal frameworks such as antiterrorism laws to curb human rights. Human rights defenders who speak out against such repressive measures are often subjected to arbitrary arrest, threats and/or intimidations. …

※ 西アフリカに関する報告

(2) FGM

ア 米国国務省「[人権状況報告 2020 年 - ガーナ \(仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2021 年 3 月 30 日)

女性器切除／女子割礼 (FGM/C)：複数の法律が FGM/C を禁止する条項を含んでいる。この慣行が大人の女性に施されることはめったにないものの、一部の州では 18 歳未満の少女にとって、依然として深刻な問題になっていた。ジェンダー・児童・社会保護省 (Ministry of Gender, Children, and Social Protection) によると、FGM/C は普及率が 27.8 パーセントのアップー・イースト州 (Upper East Region) で著しく高く、全国平均では 3.8 パーセントであった。2017 年から 2018 年にかけての複数指標クラスター調査 (Multiple Indicator Cluster Survey、MICS) によると、農村部の女性が FGM/C を強いられる割合は都市部の女性と比べて 3 倍高かった (1.2 パーセントに対して 3.6 パーセント)。FGM/C の普及を緩和する介入プログラムは、特

に北部の州で部分的に成功していた。

イ ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート ガーナ:背景情報\(国内避難を含む\)、1.0版](#)」(2020年9月)

14.6 Female Genital Mutilation (FGM)

14.6.1 The Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) noted in their 2019 Social Institutions & Gender Index:

‘In 1994, Ghana committed to ending female genital mutilation (FGM) by passing Act 484 to amend the Criminal Code. Section 69A of Ghana’s Criminal Code criminalizes female genital mutilation making it a seconddegree felony and if convicted, the guilty party shall be imprisoned for a term not less than three years. Further to this, the Criminal Offences (Amendments) Act, 2007, (Act 741) widens the scope of who can be held accountable for the practice of FGM by including participators(CEDAW Country Report, 2012). Therefore, medical practitioners, parents, other practitioners and participators of FGM can be held accountable and the law supersedes any customary, traditional or religious laws (CEDAW Country Report, 2012). Overall, Ghana has seen a decline in the number of FGM cases and, when compared to other African countries, has some of the lowest cases of FGM. A 2016 UNICEF country profile on Ghana found that a 93% of Ghanaian women and girls believe that FGM practices should stop (UNICEF, 2016). Besides being mentioned as an educational and awareness priority in the National Gender Policy, there is no stand-alone national action plan or policy to specifically address FGM. The current wording in the law does not allow for victims and survivors of FGM to receive compensation and does not provide any provisions for proper follow-up, evaluation and monitoring and enforcement in the case of FGM cases.’¹⁰⁶

...

ウ ●英国内務省「[国別政策情報ノート:ガーナ:女性器切除\(FGM\)、第1.0版](#)」(2016年12月) ※前訂版・リンク切れ

2.3.2 The US State Department’s human rights report describes FGM as a ‘serious problem’ in Ghana. However, Ghana has one of the lowest prevalence rates of FGM in Africa. The 2011 rates were also lower than a previous study in 2006, and the proportion of those who have undergone FGM decreases the younger the age grouping. This is an indication that the practice is declining….

...

2.3.5 Ethnicity is a likely factor – potentially more important than geography as practicing ethnic groups have migrated within Ghana – with it far more prevalent amongst the Mole Dagbani and, to much a lesser degree, the Grusi. Aside from these two ethnic groups and

the Mande, FGM prevalence in other ethnic groups is around or less than 1-2%...

ii. Parents who resist/oppose FGM for their minor children

2.3.8 A person who is the parent of a minor child who is opposed to them undergoing FGM within communities that practice it may face societal discrimination and ostracism for going against cultural traditions. However, in general, this is unlikely to reach the threshold to constitute serious harm.

2.5 Internal relocation

2.5.1 The law provides for freedom of movement for women and there is no evidence to suggest that this is not respected. Whilst there are reports of police extracting bribes at unofficial checkpoints, this does not amount to an obstacle that would make internal relocation unreasonable or unduly harsh (see freedom of movement for women).

2.5.2 Women have employment rights protected by the constitution and employment laws in Ghana. Whilst there is some societal discrimination with respect to employment, pay and housing, particularly in rural areas, this would not in general make relocation unreasonable or unduly harsh (see economic opportunities).

2.5.3 There are no restrictions on a woman’s right to reside in a particular place, e.g. through a registration scheme.

(3) 児童婚

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート ガーナ:背景情報\(国内避難を含む\)、1.0 版](#)」(2020 年 9 月)

14.5 Child marriage

14.5.1 The UN SR on extreme poverty and human rights report 2018 noted: ‘Early and forced marriage and teenage pregnancy are major problems, with about 27 per cent of girls marrying between 15 and 18 years of age. Ghana’s child marriage rate is one of the highest in the world and child brides often drop out from school and end up living in poverty.’¹⁰²

14.5.2 Unicef in Ghana brochure published in February 2020 stated: ‘Despite child marriage being prohibited under Ghana’s constitution and by law, still one girl out of five (19 percent) is married before her 18th birthday (MICS 2017/2018), while 19 percent of adolescent girls start bearing children, according to the 2014 Ghana Demographic and Health Survey.’¹⁰³

...

イ ●A I [「年次報告 2017 年/2018 年 - ガーナ」 refworld](#) (2018 年 2 月 22 日)

CHILDREN'S RIGHTS

In May the Minister for Gender, Children and Social Protection launched a strategy for 2017-2026 to address the issue of child marriage. Some regions were disproportionately affected by child marriage; 34% of girls in northern Ghana were married before the age of 18. The strategy included accelerating access to quality education and sexual and reproductive health information and services, as well as enforcing the existing legal and policy frameworks in relation to child marriage.

5. LGBT

(1) 法制度的な枠組み

<2024 年 5 月 13 日更新>

ア ●英国内務省 [「国別政策及び情報ノート ガーナ：性的指向及びジェンダーアイデンティティや表現 3.0 版」](#) (2022 年 5 月)

国家による取扱い

...

2.4. Section 104 of the criminal code criminalises consensual ‘unnatural carnal knowledge’ with somebody over 16. It is categorised as a misdemeanour with a sentence of up to 3 years’ imprisonment. Non-consensual ‘unnatural carnal knowledge’ with a person over 16, that is rape, is punishable with a 5 to 25 year term of imprisonment. The law does not explicitly refer to same-sex activity between men or women but ‘unnatural carnal knowledge’ is interpreted to apply to males only. However, some sources suggest because the law’s wording is vague it is not consistently interpreted and may be applied to and used against women and trans/intersex persons too (see Legal context).

...

2.4.5 A draft bill on the Promotion of Proper Human Sexual Rights and Ghanaian Family Values 2021 was introduced to Ghana’s parliament in July 2021. Amongst other things, it criminalises promoting and funding of LGBTI groups, advocates conversion therapy and medical interventions on intersex children, bans same-sex marriage and imposes longer jail terms for consensual same-sex sexual activity than the existing law. Sources indicate the bill is widely supported in Ghana, although a number of international and domestic organisations have expressed their concerns and opposition to it, with over 100 petitions submitted to parliament. President Nana Akufo-Addo stressed the need for civil debate and tolerance as parliament works towards a vote on the bill to be undertaken by MPs following a series of parliamentary debates and public hearings. The ultimate decision to enact or veto the bill rests with the president - at the time of writing the bill had not been made law (see Promotion of Proper Human Sexual Rights and Ghanaian Family Values Bill).

...

<参考>○英国内務省「[国別政策及び情報ノート ガーナ：性的指向及びジェンダーアイデンティティや表現 2.0 版](#)」(2020 年 5 月)

<参考>英国内務省「[出身国情報及びガイダンス ガーナ：性的指向及びジェンダーアイデンティティ 第 1.0 版 \(仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2016 年 2 月)

国の扱い

2.3.3 ガーナの刑法では、16 歳を超えるいずれきかの個人との『自然の理に反する性行為』を、『5 年以上 25 年以下』の禁固刑に値する犯罪としているが、この法律は、男性又は女性間の同性愛行為に明示的に言及していない。既存の法律が LGBT の人々の訴追に利用される可能性があるか否かは明らかではない。同性間の性行為が違法であるか否かの問題は、国内に大きな論議を引き起こしており、この問題はまだ解決されていない。

イ ●国連人権理事会「[Summary of Stakeholders' submissions on Ghana](#)」(2017 年 8 月 8 日)

Equality and non-discrimination

8. JS3 noted with concern that homophobia directed to lesbians, gays, bisexual, and queer/questioning people is highly prevalent in Ghana. For transgender, transsexual and intersex people, the social climate is such that individuals keep their gender identity almost completely hidden. Additionally, those who speak out about human rights violations perpetrated against people that are LGBTQI are also targets of homophobia.

9. HRW stated that the criminalization of adult consensual same-sex conduct, in terms of section 104(1) (b) of the Criminal Code, which prohibits ‘unnatural carnal knowledge’ (widely interpreted to mean same-sex conduct) contributed to a climate in which violence and discrimination against LGBT people were widespread. It further noted that the law does not prevent discrimination against LGBT people including in access to health services, employment, housing, education, and facilitated blackmail and extortion. JS10 expressed similar concerns and further noted that social stigma and religious prejudice were two major causes behind systematic violence and discrimination against LGBT-persons. HRAC made a similar statement and further noted that because of the extreme prejudice and discrimination they face, men who have sex with men were often not vocal about their status.

10. JS3 noted with concern that Chapter 6 Section 104 of Ghana’s Criminal Code (1960) is used to threaten, arrest and punish individuals who do have, or have been perceived to have, engaged in same-sex sexual activity.²³ JS14 noted with concern that individuals in Ghana are often arrested on the basis of conduct relating to their sexual orientation, even though their actions are not violating other Ghanaian laws.²⁴

11. JS3 regretted the severe lack of protection from physical attacks against LGBTQI individuals in Ghana²⁵ and recommended that the Government take measures to prevent further hate crimes, hate speech, and discrimination based on sexual orientation or gender identity and to ensure that any crimes motivated by sexual orientation or gender identity are promptly investigated, prosecuted and punished, and that the victims are provided appropriate remedy.²⁶

(2) 国家当局による性的マイノリティの取扱い ＜2024 年 5 月 13 日更新＞

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート ガーナ：性的指向及びジェンダーアイデンティティや表現 3.0 版](#)」(2022 年 5 月)

a. 国家による取扱い

...

2.4.6 Some public political figures have expressed anti-LGBTI views. President Nana Akufo-Addo reportedly stated that same-sex marriage will not be legalised under his presidency and the matter of de-criminalising homosexuality is not on the government’s agenda. Other government and public figures have made anti-LGBTI remarks that have contributed to a climate of homophobia and, in some cases, incited violence towards LGBTI persons. However, Human Rights Watch has reported that the police and the Commission for Human Rights and Administrative Justice (CHRAJ), the human rights ombudsman, have proactively tried to ‘reach out’ to the LGBTI community (see Government and political leaders and Violence and discrimination).

2.4.7 There are no reported prosecutions or convictions of LGBTI persons for consensual same-sex sexual activity in the sources consulted. However, sources state that LGBTI people, primarily gay men, have been arbitrarily arrested usually held briefly and released without charge. These incidents include LGBTI people who have been the victims of crime, sometimes because of their sexual orientation or gender identity, but when reporting those crimes to the police have been arrested or threatened with arrest, fear of exposure and extortion. Fear of intimidation, stigma and the attitude of some police are reported to be factors in deterring LGBTI victims reporting incidents of abuse. The UN Special Rapporteur considered that LGBTI persons face intimidation, arbitrary arrest, violence, threats and blackmail and they lack access to remedies for such violations, although it should be noted that this source remarked that there was an absence of statistics on the LGBTI population (see Arrests, prosecutions and detention, Police response and Violence and discrimination).

2.4.8 Conversely, there are some reports of the police having assisted LGBTI persons who have been the victims of crime linked to their sexual orientation or gender identity. The US State Department noted that activists had commented that police attitudes towards LGBTI persons were slowly changing (see Arrests, prosecutions and detention, Police

response and Violence and discrimination).

2.4.9 LGBTI persons have reportedly experienced stigma and discrimination in accessing services such as healthcare, including access to HIV/AIDS treatment, education and employment (see Access to services).

2.4.10 The government in general permits the operation of a number of civil society groups that support LGBTI persons, although it is reluctant to engage with these organisations. However, in May 2021, 21 people attending a paralegal training workshop for the protection of human rights of sexual minorities were arrested and charged with unlawful assembly, they were bailed following 22 days in detention with the case dismissed in court for lack of evidence (see Country Background Note Ghana and Arrests, prosecutions and detention).

...

2.4.12 The state inconsistently applies the anti-LGBTI laws, with sources suggesting that while elements of the government have used anti-LGBTI rhetoric, the treatment of LGBTI persons by the police and other public agencies varies, and is sometimes supportive. However, Media and NGOs reported a number of arrests of LGBTI persons (mostly gay men and lesbian women) each year on the basis of their perceived or actual sexual orientation or gender identity. However, these cases rarely get to court, with many of the arrested subject to extortion or a request for a bribe then released.

...

<参考>●英国内務省「[国別政策及び情報ノート ガーナ：性的指向及びジェンダーアイデンティティや表現 2.0 版](#)」(2020 年 5 月)

b. State treatment

...

2.4.7 The government's unwillingness to de-criminalise same-sex activity between men and introduce provisions to protect the fundamental rights of all LGBTI persons reflects wider societal attitudes. Some sources suggest this shows tacit approval of and support for discrimination against LGBTI persons (see Legal context).

2.4.8 President Nana Addo Dankwa Akufo-Addo reportedly stated that same-sex marriage will not be legalised under his presidency and the matter of decriminalising homosexuality is not on the government's agenda. Other government and public figures have made anti-LGBTI remarks that have contributed to a climate of homophobia and in some cases, incite violence towards LGBTI persons. However, the government's position is at times ambiguous and some elements of the state have been supportive of LGBTI persons. A government delegate told the UN in 2016 that Ghana that the laws of Ghana would not permit any individual to be persecuted because of their sexual orientation while officials informed the UN Special Rapporteur on human rights and extreme poverty in

2018 that there is no prohibition on same-sex couples. While Human Rights Watch reported that the police and the Commission for Human Rights and Administrative Justice (CHRAJ), the human rights ombudsman, have proactively tried to ‘reach out’ to the LGBTI community (see Government and political leaders attitude and Violence and discrimination).

2.4.9 There are no reported prosecutions or convictions of LGBTI persons for consensual same-sex sexual activity in the sources consulted. However, the UN Special Rapporteur on human rights and extreme poverty, Human Rights Watch and the US State Department (USSD) state that some LGBTI people have been arbitrarily arrested, primarily gay men, usually held briefly and released without charge. These incidents include LGBTI people who have been the victims of crime, sometimes because of their sexual orientation or gender identity, but when reporting those crimes to the police have been arrested or threatened with arrest, fear of exposure and extortion. The UN Special Rapporteur concluded that LGBTI persons endure intimidation, arbitrary arrest, violence, threats and blackmail and they lack access to remedies for such violations. However, sources do not provide information about the number or how widespread such arrests are in order to determine their frequency or patterns of treatment (see Arrests, prosecutions and detention, Police action, behaviour and responses to anti-LGBTI violence and Violence and discrimination).

2.4.10 Conversely, the police have also been reported to assist LGBTI persons who have been the victims of crime linked to their sexual orientation or gender identity. Although some sources also indicate that fear of intimidation, stigma and the attitude of some police are reported to be factors in deterring LGBTI victims reporting incidents of abuse. Some LGBTI persons have also faced police harassment and extortion, although the nature or frequency of this is unclear. However, the USSD noted that there were not any cases of state violence in 2019 (see Arrests, prosecutions and detention, Police action, behaviour and responses to anti-LGBTI violence, Violence and discrimination and Bibliography).

...

<参考>英国内務省「[出身国情報及びガイダンス ガーナ：性的指向及びジェンダーアイデンティティ 第1.0版（仮訳）](#)」入管庁ウェブ（2016年2月）

5.1.4 複数の情報筋は、性的少数派の逮捕を報告した(が、訴追は報告しなかった)。上記の逮捕事案には、以下などの事件があった。

- ・2010年5月に、ゲイコミュニティに協力する男性4人が、伝えられるところによれば、性的虐待に関連して逮捕され、ソドミーで起訴された。
- ・伝えられるところによれば、警察は2011年に、ソドミーを行ったとして男性3人を逮捕した。
- ・2012年に、コンドームを所持し、男性と一緒にいたとして男性1人が警察に『連

行』された。

- ・ノーザン州(Northern Region)の西マンプリシ(West Mamprusi)郡の郡都で小規模な農業都市のウェールウェール(Walewale)の市警は 2012 年に、同性愛者及び他の若者を同性愛者になるよう『勧誘した』容疑で 21 歳の男性を逮捕した。同市の住民は、男性がコミュニティから追放されなければ男性と家族全員を殺害すると断言していたため、警察によれば、この逮捕は被疑者自身の安全のためだということである。
- ・『西アフリカのゲイ男性のブログ』によれば、警察は 2012 年 8 月に、『集団で快楽行為を行った』として、未成年のガーナ人男性 3 人を逮捕した。男性は 2 週間、少年院に収容された。
- ・2012 年 5 月に、『予定された結婚式』を複数の『若者』に阻止された後に『違法な慣行』を行ったとして、女性 2 人がジェームスタウン警察(James Town Police)署に逮捕及び拘禁された。女性 2 人は血縁者の介入によってその後釈放された。
- ・2015 年 2 月に、同性愛行為を行ったと告発された聖ポール男子高等学校(St Paul's Boys High School)の生徒 2 人が逮捕された。
- ・報告によれば、2015 年 8 月に、ゲイの疑いがあることを理由に憤慨した住民が殺すと脅したのを受けて、21 歳の学生が警察に逮捕された
- ・2015 年 9 月 16 日に、グレートアクラ州(Greater Accra Region)のガ・ウェスト郡(Ga West)のアマサマン警察は、学校の敷地内で同性間の性行為を行った男性 2 人を逮捕した。

...

5.2.2 USSD の 2014 の報告によれば、『警察又は政府が LGBT の人々に暴力を働いた事実は報告されなかった』が、『LGBT の人々に対する警察の不名誉扱い、威圧及び態度が、被害者が虐待事件を届け出なくなる要因になっている可能性がある。』報告の続きによれば、しかしながら、全般的に見ると、『憲法及び法律はかかる行為の実践を禁じているのに対し、信ぴょう性のある複数の報告によれば、警察は被疑者、収監者及び他の民間人を殴打又は他の方法で虐待した。人権・行政司法委員会(Commission on Human Rights and Administrative Justice)によれば、被疑者及び他の民間人の殴打は国内各地で複数発生したが、被害者が正式な苦情申立てを提出するのを不本意としたため、公式のルートでは概して報告されなかった。警察は申立てを概ね否定するか、行使した武力レベルの正当性を主張した。伝えられるところによれば、軍関係者も虐待を行った。複数の非政府組織(NGO)、弁護士及び市民団体組織は、警察の過度な武力行使を批判した。

5.3 嫌がらせ及び恐喝

5.3.1 ILGHRC の 2011 年 2 月の報告は、『男性間性交渉者(MSM)の権利及び女性間性交渉者(WSW)の権利が広く且つ定期的に侵害される刑事免責の環境』について述べた。この報告書の結論によれば、同性愛は定期的に、『たいていは警察又は他の国家機関による又はそれと結託した』嫌がらせ及び恐喝の対象になっている。報告書は、ゲイ及び両性愛者男性の密告に焦点を当てており、次のよう

に述べた。

『密告は、他人、知り合い、雇用者、同僚、友人又は場合によっては家族-実際には他の個人が秘密にしておきたい情報を入手することが可能な全ての個人によって行われることがある。両当事者間にそれまで何の関係もなかった場合でも、密告者又は恐喝者が被害者に接近した事案も少数ながらある。被害者について多くを知らない他人の場合は、密告ではなく、相手から金銭、財産、性行為又は労役を得るための恐喝という手段を使うことが多かった。』

...

5.3.3 USSD は、全般的に見て、警察が企図する嫌がらせ及び恐喝に複数の個人が遭遇していると報告した上で、『信頼できる複数の報告によれば、警察は、民間の借金取立人さながらに行動し、違法な検問所を設置し、被拘禁者に遺恨を持つ仕事関係者から得た賄賂と引き換えに民間人を逮捕する方法で金銭をゆすり取っている』と追記した。他の職権濫用には、被疑者の起訴の遅延、犯罪者と警察の癒着の噂などがあり、警察の無能さに対する国民の意識は広範囲に及んでいる。これは、警察に対する一般的な意見であり、LGBT の人々直接関係するものではない。

イ ●米国国務省「[人権状況報告 2023 年—ガーナ](#)」(2024 年 4 月 22 日)

恣意的な逮捕 : There was a general practice of holding detainees without proper warrant or charge. Members of the lesbian, gay, bisexual, transgender, queer, or intersex (LGBTQI+) community were at particular risk for arbitrary arrest.

性的指向や性同一性を理由とする暴力行為, 差別, その他の虐待

Criminalization: The law criminalized the act of “unnatural carnal knowledge,” which was defined as “sexual intercourse with a person in an unnatural manner or with an animal.” The offense covered only persons engaged in same-sex male relationships and those in heterosexual relationships. There were no reports of adults prosecuted or convicted for consensual same-sex sexual conduct, but police used the law to harass the LGBTQI+ community through detention, extortion, and arbitrary arrest. Police and local leaders also used false arrests to “out” members of the LGBTQI+ community to humiliate and alienate them.

Violence and Harassment: The LGBTQI+ community reported police violence against LGBTQI+ persons. Civil society organizations and activists reported police were reluctant to investigate claims of assault or violence against LGBTQI+ persons. Stigma, intimidation, and the perceived bias of some police against LGBTQI+ persons dissuaded survivors from reporting abuse. Activists noted great difficulty in engaging officials on problems facing the LGBTQI+ community because of social and political prejudice. Evictions, extortion, public humiliation, and community ostracism were common.

LGBTQI+ persons in prison were vulnerable to harassment, as well as sexual, mental, and physical abuse, which authorities generally did not investigate.

...

ウ 米国国務省「[人権状況報告 2020 年 - ガーナ \(仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2021 年 3 月 30 日)

性的指向や性同一性を理由とする暴力行為、差別、その他の虐待

...

LGBTI の人々は、警察による嫌がらせとゆすり行為にも直面していた。警察が LGBTI の人々に対する暴行又は暴力の申立てについて熱心に捜査しないと報告があった。LGBTI の人々に対する警察又は政府の暴力事件についての報告はなかった一方で、LGBTI の人々に対する警察の汚名、威嚇、及び消極的な態度は、被害者が虐待の発生について報告するのを妨げる要因になっていた。ゲイの男性は刑務所において、性的虐待やその他の肉体的虐待を受けることが多かった。

...

LGBTI 活動家は、(2020 年) 6 月に、LGBTI の人 1 名がセントラル州の Kasoa で激しく殴打されたことを報告した。警察は犯人を逮捕したが、被害者に対して起訴に持ち込むための金銭を要求したため、被害者は結局起訴を取り下げた。

LGBTI 活動家はまた、LGBTI の人への恐喝未遂が広範囲に及んでおり、それが依然として、差別のために起訴を成立させるのが困難だったと報告した。例えば、10 月にゲイの男性が、脅迫者に彼の家主が協力していると警察に通報した。警察は家主に味方し、被害者に自分の携帯電話のロックを解除するよう強制して、被害者の家族に彼を「追い出させ」、家主に金銭を支払うよう被害者の家族に強制した。

エ 米国国務省「[人権状況報告 2019 年 - ガーナ \(仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2020 年 3 月 11 日)

恣意的な逮捕：警察による恣意的な逮捕の報告が複数あった。2019 年 8 月、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー及びインターセックス (LGBTI) の活動家たちの報告によると、強盗を通報した若いゲイの男性が、自身がゲイであることを口にしたため、警察がこの男性を短期間拘束したとのことである (第 6 節を参照のこと)。

...

性的指向や性同一性を理由とする暴力行為、差別、その他の虐待

...

LGBTI の人々は、警察からの嫌がらせや恐喝未遂も受けていた。LGBTI の人々に対する暴行又は暴力の申し立てについて、警察が積極的に捜査する姿勢を見せないという複数の報告があった。2019 年には、LGBTI の人々に対する警察又は政

府の暴力について報告された事件はなかった一方で、社会的偏見、脅迫及び LGBTI の人に対する警察の姿勢により、被害者が虐待の発生を報告することを妨げられていた。刑務所においてゲイの男性は性的その他の虐待に遭いやすかった。

2019年8月、LGBTIの活動家らの報告によると、出会い系サイトで知り合った人物に会いに行く途中で、強盗に遭ったゲイの若い男性に対して警察が虐待する事案が発生した。その男性が事件を警察に通報したとき、自身がゲイであることに男性が言及したため、警察が彼を拘束したのである。アムネスティ・インターナショナルは2018年、性行為を行っていたとされる2人の若い男性らに対して、当局が強制的な医学的検査を実施したことを報告した。

IGPが任命する連絡係の制服警察官などの特定の警察官に対しては、LGBTI コミュニティの人々が以前よりも安心できると感じ、助けを求めることができたとして、警察の姿勢が少しずつ変化していることを複数の活動家が報告した。活動家らはまた、ソーシャル・メディアを通じた意識向上活動など、CHRAJが支援する活動が改善されたと言及した。例えば、CHRAJはLGBTIの出会い系サイトに、市民の権利や虐待案件の適切な通報ルートに関して広報を行った。ある有力なNGO団体は、保守的なノーザン州において初めて、法執行機関に対する法律教育ワークショップを開催した。

...

オ ●HRW [「Ghana: Drop Charges Against LGBT Rights Defenders」](#) (2021年6月17日)

Police arrested the 16 women and 5 men on May 20 at a hotel where they were attending a paralegal training session by Rightify Ghana, a human rights organization. Police justified the arrest on the grounds that the training session was promoting homosexuality and that the gathering was an unlawful assembly. Section 201 of the Ghana Criminal Code (Amendment) Act 2003 (Act 646) defines an unlawful assembly as the gathering of three or more people with the intent to commit an offense, clearly not the case in this instance, Human Rights Watch said.

...

カ ○ARC [「Ghana: State treatment of LGBTQI+ persons」](#) (2021年3月)

(3) 社会における性的マイノリティの取扱い <2024年5月13日更新>

ア ●英国内務省 [「国別政策及び情報ノート ガーナ：性的指向及びジェンダーアイデンティティや表現 3.0版」](#) (2022年5月)

b. 社会における取扱い

2.4.16 Ghana is a culturally and religiously conservative country, with most people holding

negative views of same-sex relations. Sources indicate that there is strong societal intolerance of and discrimination against LGBTI persons. Many Christian and Muslim religious leaders are opposed to LGBTI rights and play a role in perpetuating stigmatization of same-sex relations, providing ‘conversion therapies’ and in some cases, incite violence towards LGBTI persons openly condemning ‘homosexuality’. Anti-LGBTI rhetoric from religious groups magnifies existing societal homophobia. The media generally portrays LGBTI persons negatively. (see Constitution, ‘General’ treatment by state and non-state actors and Societal attitudes and treatment)

2.4.17 LGBTI persons face a range of discriminatory treatment from societal actors because they are perceived to be different. They are frequently victims of physical violence and psychological abuse, extortion and discrimination in different aspects of daily life. Some LGBTI persons may conceal their sexual orientation or gender identity out of shame and stigma. There are also reports that LGBTI persons who are known to be or perceived to be LGBTI have been subjected to threats and violent attacks by family and members of their communities, are subject to attempts at forced conversion and face harassment, intimidation, blackmail, loss of property and eviction, denial of educational opportunities, loss of employment, education and difficulties in accessing health care. One source has suggested the draft ‘family values’ bill has caused an increase in violence and discrimination towards LGBTI persons (see Societal attitudes and treatment, ‘General’ treatment by state and non-state actors, Access to services and Promotion of Proper Human Sexual Rights and Ghanaian Family Values Bill).

2.4.18 Human Rights Watch reported that LGBTI persons, particularly lesbian and bisexual women, may be rejected by their families and experience pressure to enter into heterosexual marriages where they are vulnerable to domestic violence. Transgender men may also be victims of domestic violence and/or coerced marriage. LGBTI persons have been reported to the police by family members once their sexuality has been exposed. Others have experienced physical violence and psychological abuse, and there are some reports of mob violence (see Arrests, prosecutions and detention and Societal attitudes and treatment, Access to services).

...

<参考>英国内務省「[出身国情報及びガイダンス ガーナ：性的指向及びジェンダーアイデンティティ 第1.0版（仮訳）](#)」入管庁ウェブ（2016年2月）

社会の扱い

...

2.3.8 LGBT の人々に対する社会的な敵意は広い範囲に見られる。ガーナは多宗教国家であり、キリスト教が主流でイスラム教は少数派である。上記の宗教集団の一部は同性愛を公然と非難している。LGBT の人々に対する社会的暴力の報告はいくつかあるものの、このような暴力の程度を示す証拠はあまりない。

LGBT の人々は保健医療及び雇用や教育を受ける機会においても差別を受けている。(社会の態度及び扱いを参照)

2.3.9 ガーナには正式に登録された LGBT 組織はないが、NGO 及び人権擁護組織は自由に活動しており、政府からほとんど制限を受けていない。LGBT の人々が一部で支援されている報告があったが、LGBT の権利が優先事項になっていないと思われる組織も複数ある。(社会の態度及び扱いを参照)

...

2.3.11 ...同性間の性行為は非合法化されているが、訴追はほとんど見られず、告訴されることはほとんどない一方で、社会的不寛容は蔓延している。ただし、全般的に見ると、LGBT の人々が遭遇する差別及び虐待のレベルは、迫害又は別段の非人間的又は品位を傷つける扱いのレベルに達するようなものではない。...

イ ●米国国務省「[人権状況報告 2023 年—ガーナ](#)」(2024年4月22日)

性的指向や性同一性を理由とする暴力行為，差別，その他の虐待

...

Attacks by private citizens on LGBTQI+ persons were frequent and growing in number. Many attacks were well organized and sometimes shared on social media to further humiliate and ostracize LGBTQI+ persons. A local civil society organization tracking violence against the LGBTQI+ community reported more than 76 such attacks during the year. In January, assailants disrupted a traditional celebration with a homophobic attack against the chief celebrant. Social media harassment continued following the incident, until the victim left the country. In May, three persons assaulted and robbed a man after contacting him on social media, justifying the assault because they believed the victim was gay. Verified attacks against LGBTQI+ persons occurred in March, June, July, August, and October. Police arrested the perpetrators from the May attack, but the prosecutor repeatedly delayed the case in court. Police never identified the perpetrators in the other cases.

Increased harassment compelled many members of the LGBTQI+ community to relocate from their homes; some family members publicly revealed their LGBTQI+ relatives' identities. Civil society groups reported several LGBTQI+ community members permanently left the country because of increasing hate speech and harassment.

Discrimination: The law did not prohibit discrimination by state and nonstate actors based on sexual orientation, gender identity or expression, or sex characteristics. The law did not explicitly recognize LGBTQI+ couples and their families nor grant them rights equal to those of other persons. LGBTQI+ persons faced widespread discrimination in education, employment, financial services, and housing. For the third year in a row, there was a notable increase of anti-LGBTQI+ statements by high-ranking political figures and by religious and community leaders, as well as media coverage of these statements. Most activists believed the presence of an anti-LGBTQI+ bill in parliament encouraged the statements. Some

members of parliament called on LGBTQI+ persons to not seek medical services and for medical providers to refuse to treat them.

ウ 米国国務省「[人権状況報告 2020 年 - ガーナ \(仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2021 年 3 月 30 日)

レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、及びインターセックス (LGBTI) の人々は、教育と雇用に関して蔓延する差別に直面していた。アルストン国連特別報告者は、2018 年にガーナを訪問した後で、LGBTI の人々に対する汚名と差別が、彼らが仕事を見つけて、コミュニティの生産的な一員になることを困難にしていると指摘した。2018 年の調査によると、国民の約 60 パーセントが、LGBTI の人々が異性愛の人々と平等な扱いを受けることに「強く反対である」又は「反対である」と表明した。

エ 米国国務省「[人権状況報告 2019 年 - ガーナ \(仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2020 年 3 月 11 日)

性的指向や性同一性を理由とする暴力行為、差別、その他の虐待

...

LGBTI の人々は、教育や雇用において広範な差別に直面していた。国連特別報告者のアルストンは、2018 年 4 月にガーナを訪問した後の同年 6 月に、LGBTI の人々は社会的偏見や差別が原因で、仕事を見つけることも、コミュニティの生産的な構成員になることも難しい状態にあると指摘した。2018 年に実施されたある調査によると、LGBTI の人々が異性愛者と同等の扱いを受けるのは当然であるという考えに、一般市民の約 60 パーセントが、「強く反対する」又は「反対する」と答えたという。2019 年 9 月の時点で CHRAJ は、性的指向又は性同一性を理由とする差別の報告を 34 件受けていた。

...

オ ●A I 「[年次報告 2017 年/2018 年 - ガーナ](#)」refworld (2018 年 2 月 22 日)

RIGHTS OF LESBIAN, GAY, BISEXUAL, TRANSGENDER AND INTERSEX PEOPLE

Consensual same-sex sexual relations between men remained a criminal offence. LGBTI people continued to face discrimination, violence and police harassment as well as extortion attempts by members of the public. In February the Speaker of Parliament stated in the media that the Constitution should be amended to make homosexuality completely illegal and punishable by law. In July he also stated in the media that Ghana would not decriminalize homosexuality as this could lead to bestiality and incest becoming legalized.

6. 汚職、非国家主体による犯罪、国家による被害者の保護

(1) 治安当局の汚職・犯罪

<2024年5月13日更新>

ア ●英国内務省「[出身国情報及びガイダンス ガーナ：保護主体、1.0版](#)」(2020年9月)

2.3.4 Corruption and bribery are widespread, according to the Ghana Overseas Advisory Council, the police have a poor record of investigating and solving serious crimes, particularly local police in remote rural areas. Police seldom intervened in cases of domestic violence, returning victims to their families in cases deemed less severe, or were unwilling to prosecute and where the police do arrest suspects, few cases result in conviction. While there is no fully independent, specific police oversight body, the IGP and Police Professional Standards Bureau (PPSB) investigate claims of excessive force by security force members and the external police council has the power to recommend disciplinary action for police officers. Disciplinary actions are forwarded to the Inspector General of police via PPSB. The PPSB also investigates human rights abuses and police misconduct, however, while it is reported that some complaints progress to an investigation stage the overall effectiveness of PPSB is unclear (see Corruption and effectiveness, Police response to gender based violence and Oversight bodies and mechanisms)

...

2.3.6 Despite the steps taken to address corruption and abuse, sources indicate that the GPS continue to be responsible for a number of human rights violations such as arbitrary or unlawful killings and arbitrary arrest and detention. However, there is no information in the sources consulted with regard to the number of incidents. There is limited information indicating that police who commit human rights violations are punished or penalised for their actions despite the various oversight mechanisms. Prolonged and arbitrary pretrial detention is common while prison conditions generally are poor (see Arrest and detention and Human rights abuses as well as the Country Policy and Information Note on Ghana: Background information and internal relocation.

イ ●米国国務省「[人権状況報告 2023年 - ガーナ](#)」(2024年4月22日)

a 恣意的な生命の剥奪及び他の法に基づかない又は政治的動機による殺害

In contrast with 2022, there were no reports the government or its agents committed arbitrary or unlawful killings, including extrajudicial killings, during the year.

...

ウ 米国国務省「[人権状況報告 2020年 - ガーナ \(仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2021年3

月 30 日)

a 恣意的な生命の剥奪及び他の法に基づかない又は政治的動機による殺害

政府又はその職員が、恣意的もしくは不法な殺害に関与したという報告がいくつかあった。治安部隊による殺害の捜査を担当する部局としては、ガーナ軍 (Ghana Armed Forces) の特別捜査隊 (Special Investigations Branch) 及び警察監察局 (Police Professional Standards Bureau) 等が挙げられる。

(2) 対立政党間の暴力

<2024年5月13日更新>

ア 米国国務省「[人権状況報告 2020年 - ガーナ \(仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2021年3月30日)

a 恣意的な生命の剥奪及び他の法に基づかない又は政治的動機による殺害

…

6月から8月までの有権者登録運動期間に、複数の登録会場で与党側と野党側の活動家らが関与する暴力的な抗議活動が発生し、2名の死者が出た (第3節、最近の選挙を参照)。

ガーナ警察庁は、12月7日の国政選挙で5人が銃殺及び殺害されたと報告した。その後、6人目が銃撃による負傷で死亡した。死亡事件のうち2件はテチマン・サウス (Techiman South) (ボノ・イースト州、Bono East Region) で発生し、治安部隊が関与していた。メディアと野党関係者は、選挙結果を覆すために威嚇を行ったとして警察と軍を告発した。国防大臣は告発を否定し、内務大臣は死亡事件について捜査する意向を表明した。

イ ●米国国務省「[人権状況報告 2019年 - ガーナ](#)」 (2020年3月11日)

ELECTIONS AND POLITICAL PARTICIPATION

Recent Elections: Parties and independent candidates campaigned openly and without undue restrictions in the period preceding the most recent national elections in 2016 for the executive and legislative branches. Participants ran largely peaceful campaigns, although there were reports of isolated instances of violence. Domestic and international observers assessed the elections to be transparent, inclusive and credible. Observers noted concerns over the misuse of incumbency and unequal access granted to state-owned media during the campaign, although the incumbent party still lost. There were some reports of postelection violence, including takeovers of government institutions by vigilante groups associated with the victorious New Patriotic Party (NPP).

In January violence between government security forces and alleged political vigilantes disrupted a by-election held to fill a parliamentary seat in the constituency of Ayawaso West Wuogon in Accra. Gunfire erupted near a polling station and the home of the opposition candidate, leaving 18 persons injured. The opposition candidate pulled out of the race on

the day of the election in response to the incident, and the Electoral Commission (EC) subsequently announced that the NPP candidate had won the election. After the president called for a rapid inquiry into the matter, the government set up the Emile Short Commission of Inquiry to investigate the violence. In September the commission published its report online. The government agreed or partly agreed with approximately 40 percent of the recommendations. In September the president signed into law the Vigilantism and Related Offenses Act, which stipulates 10- to 15-year sentences for anyone convicted of soliciting or engaging in political vigilante activity.

ウ ●米国国務省「[人権状況報告 2018 年 - ガーナ](#)」(2019 年 3 月 13 日)

ELECTIONS AND POLITICAL PARTICIPATION

… There were reports of postelection violence, including takeovers of government institutions by vigilante groups associated with the victorious New Patriotic Party.

エ 米国国務省「[人権状況報告 2016 年 - ガーナ \(仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2017 年 3 月 3 日)

概要

ガーナは、強権的な大統領制及び 275 議席の一院制議院を持つ立憲民主主義国である。2016 年の選挙に先立つ期間に、政党と無所属候補は公然と、不当な制約も受けずにキャンペーンを行った。単発的な暴力の例が報告されたが、キャンペーンはおおむね平和的に進んだ。12 月 7 日に実施された大統領選と議会選挙は、平和的で透明性があり、包括的で信用できるものであると、国内外のオブザーバーから評価された。新愛国党 (New Patriotic Party: NPP) の候補者、ナナ・アクフォ＝アド (Nana Akufo-Addo) が投票総数の 53 パーセント以上を確保し、国民民主会議 (National Democratic Congress: NDC) の候補者で現職大統領のジョン・マハマ (John Mahama) に 9 パーセント以上の差をつけて勝利した。マハマ大統領は 12 月 9 日に選挙での敗北を認めた。NPP の候補者が議会の 169 議席を勝ち取り、NDC が残りの 106 議席を確保した。

選挙及び政治的な参加

最近行われた選挙：2016 年の選挙に先立つ期間に、政党と無所属候補は公然と、不当な制約も受けずにキャンペーンを行った。選挙委員会は、一般有権者登録認証運動の実施を含めて、選挙が、自由かつ公正であると保証する措置を講じた。単発的な暴力の例が報告されたが、キャンペーンはおおむね平和的に進んだ。例えば、9 月に Suhum と Asunafo South で攻撃者が選挙委員会の事務所から略奪を行った。また、NPP 及び NDC の支持者らと政党提携自警団グループとの間の武力衝突についての報告があった。…

(3) 国家保護へのアクセス

ア ●IRDC 「IRDC 調査回答 Information on police in Ghana and whether they get involved in family matters」 (2009 年 4 月 8 日)

The US Department of State reports:

”The police service received repeated criticism due to incidents of police brutality, corruption, and negligence. Impunity remained a problem. Delays in prosecuting suspects, rumors of police collaboration with criminals, and the widespread perception of police ineptitude contributed to an increase in vigilante violence during the year. There were also credible reports that police extorted money by acting as private debt collectors, by setting up illegal checkpoints, and by arresting citizens in exchange for bribes from detainees' disgruntled business associates.” (US Department of State (25 February 2009) Ghana - Country Report on Human Rights Practices – 2008)

イ [RRTA「カントリーアドバイス - ガーナ \[GHA37370\] : Bawku - Mamprusis - Kusasis - Communal violence - Christians - State protection - Internal relocation」](#) (2010 年 9 月 16 日) 米国司法省ウェブ

ガーナのその他地域における国家保護

より一般的には、アクラやクマシ、その他の主要都市を含むガーナ全域では、国家による保護の利用可能性はより良好である。英国内務省は、2009 年の運用ガイドランスノートの中で、「民族集団／部族のメンバーが、敵対する民族集団や部族の手による不利益な取扱いを受けても、国家当局から適切な保護を求め、受けることができないという証拠はない」と論じていた。これには、マンプリシ族とクサシ族の間の紛争から逃れてきた人々も含まれている。また、民族間の衝突は通常、「国家当局によって短期間で収束するか、または、すぐに鎮圧される」ものであるとも論じている。しかし、バウク [Bawku] での暴力が数年前から散発的に続いていることを考慮すると、この後者の論述には議論の余地がある。英国内務省は、部族間の暴力から国家の保護を受けられないという主張は根拠がなく、「そのような主張は、1951 年（難民）条約に基づく英国の義務とは関係ない。」と結論付けた。2001 年に発表された DFAT の報告書は、ガーナでは国家の保護が十分であるという内務省の見解に同調し、過去 20 年間にガーナに重大な混乱はなかったと述べている。

しかしながら、ガーナ全域で国家保護を受けることができるかどうかは、しばしば当局の「法執行への意思と能力」に左右される。米国国務省 (USDOS) は 2010 年の報告書の中で、殺人などの犯罪を予防や解決のための警察サービスを全国的に提供するには、「首都以外の地域に事務所用設備や警察車両、装備が不足していることなど、「重大な障壁がある」と述べている。統合地域情報ネットワーク (IRIN) の 2008 年 6 月の記事では、アクラでは警察のレベルの低さが原因で自警団が台頭

していると報じられている。しかし、欧州委員会が、「裁判の自動化や裁判所の増設、裁判のペースの迅速化を意図した義務的な週末裁判」など、警察と司法の改革のために資金を提供しているとも報じている。

複数の場面において、警察は部族問題の結果として犯された犯罪に対して、対処する意思がないか、またはその能力もなかった。米国国務省は次の通り報告した。

ブロンアハフォ州のゴアソ〔Goaso〕伝統地区の大首長は、自分の前にひざまずかないことを理由に28歳の女性を杖で殴るように部下らに命じた。被害者が警察に通報したところ、警察は告訴の受理を拒否し、被害者とその母親を罪状なしに逮捕した。彼女らはその後釈放された。

2010年3月のマイ・ジョイ・オンライン〔My Joy Online〕の記事は、部族長の誘拐と殴打事件の責任者を逮捕についての当局の不作為を述べている。2009年7月の部族対立の際、現場に呼ばれた18人の警察官は暴動を防ぐことができなかったと伝えられている。

前述の英国内務省の運用ガイダンスノートによると、警察サービスは、残虐行為や汚職、過失の事件の後に批判を受けたが、一般市民は、警察情報及び専門的水準部門（PIPS）に苦情を申し立てることができた。人権侵害の申し立てる者は、人権行政司法委員会（CHRAJ）を通じて救済を求めることができた。

ウ RRTA [「RRT 調査回答 \[GHA35095\]」](#) (2009年7月30日) 米国司法省ウェブ

エコノミスト誌は、ガーナ北部でのアンダニ氏族〔Andani〕とアブドゥ氏族〔Abudu〕の間で「緊張の最近の燃え上がり」について報告している。

最近の緊張の燃え上がりは、現在 NDC が支配するノーザン州安全保障会議（Regsec）が、両氏族にとって神聖な場所である王室の霊廟の修復をアンダニ氏族の上級メンバーに許可した後に起こった。アブドゥ氏族は、2002年の出来事で生じた緊張の後から空席のままになっているダグボン族〔Dagbon〕の次の王を選択するために、アンダニ氏族の NDC 政府による暗黙の支持としてこの動きを認識した。アブドゥ氏族は、州安全保障相のステイーブン・スマニ・ナイナ〔Stephen Sumani Nayina〕を不公平であると非難し、彼の退職を要求した。ナイナ氏は、霊廟の劣化について今措置が講じられないと永遠に失うことになりうるので、それを食い止める緊急措置が必要なために、この修復がアンダニ氏族によってはじめられたと説明して回答した。ナイナ氏は、Regsec は高位首長委員会によって現在実施されている和平プロセスに取り組んでいるが、暴力に訴える部族は断固として対処されるだろうと警告した。（「ガーナ政治：ダグボン地域の緊張が再燃」、Economist Intelligence Unit – ViewsWire、2009年6月9日、別添3）

...

エ RRTA [「RRT 調査回答 \[GHA34619\] : ガーナ - コンコンバ/ナヌンバ紛争 - ダ](#)

グボン首長対立 (2009年3月26日) 米国司法省ウェブ

2000年に出版された『和解・正義・共存：理論と実践』という書籍の第9章には、1994年のホロホロチョウ紛争とその後の1995年の紛争について、以下のよう

...
...

...1994年2月に紛争が勃発して間もなく、中央政府は紛争を鎮めるために軍を派遣した。この介入は戦闘を止めるのに有効であったが、兵士が紛争に巻き込まれ、一部の地域にさらなる不満を募らせた場合もあった。

...1994年の紛争後、病院や役所などの公共の場に行くためにナンムンバ [Nanumba] の町を通らなければならないコンコンバ族 [Konkomba] が嫌がらせを受け、ナンムンバに待ち伏せされて殺される者も出てきた。これが先の紛争による引き起こされた敵意と怒りを爆発させ、コンコンバ族が攻撃し、18人のナンムンバ族を殺害した。ナンムンバ族はこれに対する報復としてコンコンバの町を攻撃して町を破壊し、その町の長と何人ものコンコンバ族を殺害した。紛争はすぐに周辺のいくつもの町や村に広がった。政府軍が介入して阻止するまでに、約150人が殺害され、14の村々が焼かれ、1万8000頭以上の家畜が略奪され、約2万1000人が避難生活を余儀なくされた。1994年の紛争では、再建に向けて動き出したばかりの被害者が、再び被害者となった。コンコンバ族とナンムンバ族の小競り合いが激化し、緊張感が高まっていたため、1995年3月に戦争が勃発することは予想できたという人も多い。しかし、これらの問題の調査に責任を有する機関は、危機が迫っているという警告に耳を貸さなかったと言われている。

...

オ ●IRBC 「IRBC クエリー回答 [GHA101614.E]」 (2006年10月2日)

According to an article in *Accra Daily Mail*, "[c]orruption in Ghana [is] so bad that one may think it has been institutionalized in the public sector" and "[m]ost police and prison officers are ranked the highest bribe takers" (2 June 2005). Similarly, Agence France-Presse (AFP) reports that police officers in Ghana, among other countries, are perceived as being "especially corrupt" (9 Dec. 2004; see also US 8 Mar. 2006). In a survey conducted by Ghana Integrity Initiative (GII), Transparency International's local branch (GII n.d.), 76.8 percent of respondents indicated that the Police Service was considered one of the top ten most corrupt institutions in Ghana (July 2005, 7).

...

According to the Ghana Police Service's Web site, the Special Police Command (SPC) unit was established to improve public trust in police services, to ensure their accountability and to enhance their efficiency (Ghana n.d.b). The SPC acts as an internal audit that deals with public complaints against police officers (ibid.). Among other functions, the SPC seeks "[t]o discourage any tendencies of bribery and corruption by the Police Officers and

investigate any allegations made against police officers in this respect" and "[t]o enquire into any complaint regarding the acceptance by a Police officer of any monetary or other consideration before granting bail to any suspect in cells" (ibid.).

...

The government of Ghana established the Commission for Human Rights and Administrative Justice (CHRAJ) in 1992 to ensure that the government complies with its human rights obligations which includes investigating allegations of corruption and misappropriation of public funds by public officials (Ghana n.d.a; *The Ghanaian Chronicle* 4 Jan. 2006). However, the Ghana Center for Democratic Development (CDD-Ghana) indicated, in a briefing paper on Ghana's anti-corruption efforts, that the CHRAJ was unable to fulfill its anti-corruption mandate as a result of budget cuts in 2005 (1 May 2005, 2).

【参考】イタリア最高裁判所 [判決 \[Ordinanza 2294/2012\]](#) refworld (2012年2月16日)

...the Court considered that in this context the assumption that the Ghanaian police would have protected him is not grounded, because family revenge is a tribal rule as well as the religious sacrifice and it is not sure that the Ghanaian police would have been able to grant protection to IC.

(4) 国内避難選択の可能性

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート ガーナ:背景情報\(国内避難を含む\)](#)、[1.0版](#)」(2020年9月)

2.3.2 Ghana has an open, market-based economy which is a mixture of public and private enterprise with relatively few policy barriers to trade and investment in comparison to other countries in the region. The World Bank assessed it to be a middle income country. The economy is dominated by services (the large majority in the informal sector), with around a fifth working in agriculture and the remainder in industry. Gold, oil, and cocoa exports, and individual remittances, are major sources of foreign exchange. Approximately 50% of the labour force is employed in the agricultural, forestry and fishing sectors. Ghana's has shown steady growth in recent years, although the likely impact of covid-19 is that it will slow or shrink in 2020. While Ghana has made steady economic progress in the last decade and met its UN-mandated millennium development goals in 2015 many people continue to live in poverty and lack access to basics services with 1 in 5 living in poverty, 1 in 8 in extreme poverty and 1 child in 10 living in extreme poverty (see Socio-economic conditions, Employment, Food security and Healthcare, water, sanitation and hygiene).

2.3.3 More than two-fifths of unemployed persons are located in Ashanti and Greater

Accra. Accra has a lack of access to housing and basic services, such as water and sanitation. Most workers, particularly women, are employed in low wage jobs within the informal sector. Women make up approximately 50% of the agricultural labour force and are not protected by labour or minimum wage laws and women carry the burden of working for subsistence wages in the informal sector. Discrimination in employment continues to exist with respect to women, persons with disabilities, HIV positive and lesbian, gay, bisexual, trans and intersex people (see Employment and Women: Legal, social and economic rights).

2.3.4 State education is available and compulsory for all children from kindergarten through to junior high school. It is regarded as one of the best developed educational systems in West Africa. Eleven years of tuition free kindergarten, primary and junior education is followed by 3 years of senior secondary education which was made free in 2017. Unicef reported notable progress in lessening the disparity in enrolment rates between boys and girls at junior high school level (see Education).

2.3.5 People have access to a mix of public and private health care. Hospitals and clinics are provided by the government, privately and by various Christian missions across the country. Hospitals and clinics are overburdened in rural areas and almost all of specialist health care professionals are found in the south. There is a lack of specialised services for particularly vulnerable groups such as people with disabilities and homeless people. The quantity and quality of health facilities and medical personnel has progressed but rapid population growth continues to impose pressures on these services (see Healthcare, water sanitation and hygiene).

2.3.6 The government has expanded the police's domestic violence and victim support unit and have created special courts for gender-based violence. However, women face discrimination, and domestic violence and rape remain a problem. Harmful traditional practices such as early and forced marriage and female genital mutilation (FGM) persist and remains a serious problem for girls younger than 18 in some regions. The Upper East (41.1%) and Upper West (27.8%) regions have the highest prevalence of FGM, all other regions have a prevalence of less than 5%. Ghanaian women and children continue to be sexually exploited and recruited for forced labour and sex trafficking (see Child labour and trafficking, Sexual exploitation of children, Female Genital Mutilation (FGM) and Women: Overview, FGM and other harmful traditional practices, Rape, domestic violence and sexual assault).

2.3.7 There are no legal constraints on movement within the country. However the police sometimes impose illegal check points in order to demand bribes from travellers. Poorly developed road networks and banditry can make travel outside of the capital and tourist areas difficult. (see Freedom of movement and Security and crime situation and the Country Policy and Information Note on Ghana: Actors of Protection)

7. 兵役、強制徴集（非国家主体の）

8. 司法制度・刑事手続

ア ●英国内務省「[出身国情報及びガイダンス ガーナ：保護主体、1.0版](#)」（2020年9月）

2.3.7 Ghana has established a functioning judicial system underpinned by a criminal procedure code, which operates largely independently of government influence. Due process and defendants’ rights are mostly upheld. However, there are reported cases that individuals have been held without charge for longer than the 48 hours allowed, and in some cases are detained for indefinite periods. Moreover, many people were unable to afford lawyers and the UN Special Rapporteur considered the criminal justice system to be under-resourced and the legal process was in practice only accessible to the wealthy. A judicial complaints’ unit exists within the Ministry of Justice, however bribery and corruption continue to be a problem (see Trial Procedures, Independence and effectiveness of the judiciary, Legal aid, lawyers and other assistance and Avenues of redress).

2.3.8 The state has taken reasonable steps to establish and operate an effective legal system for the detection, prosecution and punishment of acts constituting persecution or serious harm and to which persons have access. This includes enacting criminal law and judicial procedural codes, and operating functioning law enforcement agencies and judiciary

9. 警察・治安部隊（刑務所等の状況含む）

(1) 刑務所の状況

ア ●フリーダムハウス「[世界の自由 2019年版 - ガーナ](#)」（2019年2月4日）

Ghana’s prisons are overcrowded, and conditions are often life-threatening, though the prison service has attempted to reduce congestion and improve the treatment of inmates in recent years. …

10. 報道の自由

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート ガーナ：背景情報\(国内避難を含む\)、1.0版](#)」（2020年9月）

16.1.1 Freedom House in Freedom in the World 2019, Ghana stated:

‘Freedom of the press is constitutionally guaranteed and generally respected in practice. Ghana has a diverse and vibrant media landscape that includes state and privately owned television and radio stations as well as a number of independent newspapers and magazines. Online news media operate without government restrictions.

‘Government agencies occasionally limit press freedom through harassment and

arrests of journalists, especially those reporting on politically sensitive issues. In February 2018, Christopher Kevin Asima, a radio presenter for A1 Radio, was allegedly assaulted by three police officers while reporting on a fire in Bolgatanga, the capital of the Upper East Region. The regional police commander and his deputy apologized for the incident and promised that there would be consequences for the officers involved. In March, Latif Iddrisu, a reporter for JoyNews and JoyFM, was allegedly attacked by police officers stationed at the Criminal Investigations Department headquarters in Accra. According to Iddrisu, the beating occurred after he inquired about the arrest of a senior NDC official who had predicted an uprising against the president; the charges in that case were later dropped. In June, the Media Foundation for West Africa issued a statement expressing concern about incidents the previous month in which two journalists and a civil society activist had been threatened because of their work.’¹¹⁹

16.1.2 The USSD human rights report for 2019 stated:

‘The constitution and law provide for freedom of expression, including for the press, and the government generally respected this right. Independent media were active and expressed a wide variety of views without restriction.’¹²⁰

16.1.3 Conversely the same report stated

‘From January 2018 to May 2019, there were at least 11 cases of attacks on journalists. In March 2018 police assaulted a reporter who had visited the Criminal Investigations Department headquarters to report on the arrest of a political party official. The reporter sustained fractures to his skull. One year later, in March, the journalist’s company, Multimedia Group Limited, filed a lawsuit against the inspector general of police and attorney general for 10 million Ghanaian cedis (\$1.9 million) in compensatory damages for the assault. Civil society organizations and law enforcement authorities worked to develop a media-police relations framework to address the increasingly contentious relationship between the entities.

‘In January unidentified gunmen shot and killed prominent undercover journalist Ahmed Hussein-Suale, following reports from 2018 that a member of parliament had publicly criticized Hussein-Suale and incited violence against him. Hussein-Suale’s investigative crew had produced a film about corruption in the country’s soccer leagues, which included involvement by officials, referees, and coaches. Police questioned the parliamentarian, and reports indicated that authorities arrested several persons and subsequently granted bail. The investigation continued at year’s end.

‘Another investigative journalist received death threats following the release of his documentary that revealed the presence of a progovernment militia training on government property, despite the administration’s assertions it did not endorse the use of private security firms, and that the group mentioned in the documentary was a job recruitment agency, not a militia.’¹²¹

...

イ 米国国務省「[人権状況報告 2016年 - ガーナ \(仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2017年3月3日)

a 言論及び報道の自由

憲法及び法律は言論及び報道の自由を定めているが、政府はこれらの権利をおおむね尊重していた。

暴力と嫌がらせ: 政府当局と治安当局者は、国内各地でジャーナリストに暴行と嫌がらせをする場合があった。ある例では、最高裁判所が係属中の事件の裁判官に対する脅威であると主張した発言に関して、同裁判所がラジオ番組の司会者と番組に出演した2人のパネリストに罰金を科し、禁固4ヶ月を宣告した。裁判所命令によってラジオ局にも罰金が科され、局側はそのようなコメントが将来的に放送されるのを防止する措置を講じると強く断言した。大統領の執行延期令により、収監されたラジオ司会者とパネリストは1ヶ月後に釈放された。

セントラル州 (Central Region) Gomoa Ojobi で警察官が地元のテレビ・ラジオ局のレポーターに暴行し、勾留したとの疑惑を、地元メディアは広く報道した。別の例では、メディアは、バス運転手に賄賂を要求している警察官の写真を撮ったジャーナリストが逮捕されたと告発する話を報道した。

11. 宗教の自由

12. 国籍、民族および人種

(1) 民族

ア 外務省海外安全ホームページ「[ガーナの危険情報【一部地域の危険レベル引き上げ】](#)」 (2020年2月25日)

【詳細】

1 概況

...

(2) ノーザン州とその周辺の州では、首長権を巡る対立や部族間・政党支持者間の対立による銃器を使用した衝突で死傷者が発生しており、一部の地域では夜間外出禁止令が発出されています。加えて、物価高などの経済状況が国民生活を圧迫し、国民の不満が高まっているとみられることから、些細な事件をきっかけに大きな衝突・混乱が発生する可能性があります。

...

2 地域情勢

...

2) 上記を除くその他地域

レベル1：十分注意してください。(継続)

ノーザン州, アッパー・イースト州, ノース・イースト州, サバンナ州, ボノ州及びオティ州では, 首長権をめぐる対立や部族間・政党支持者間の対立による銃器を使用した衝突で死傷者が発生しており, 一部の地域では夜間外出禁止令が発出されています。加えて, 物価高などの経済状況が国民生活を圧迫し, 国民の不満が高まっているとみられることから, 些細な事件をきっかけに大きな衝突・混乱が発生する可能性があります。

...

【夜間外出禁止令地域】

ビンビラ, パティンガ及びサボバ (ノーザン州), ボルガタンガ (アッパー・イースト州), プンクプルグ及びチュレポニ (ノース・イースト州), ボレ (サバンナ州), ジャマンサウス (ボノ州) アラヴァニョ及びンコニャ (オティ州)

イ MRGI「マイノリティ世界要覧 - 概要 - 2015年 ガーナ - コンコンバ族」(2015年6月15日) 米国司法省

プロフィール

ガーナ北部には約50万人のコンコンバ族 [Konkomba] (Ethnologue, 2003) が住んでおり, その多くはイスラム教徒である。彼らは大首長を持たずに宗教的指導者を持ち, 政治権と土地の権利が限定的である。

歴史的な背景

ガーナでは, コンコンバ族 [Konkomba] は大首長制 (Nas) を持たないことにより周縁化されてきた。しかし, ダゴンバ族 [Dagomba], ゴンジャ族 [Gonja], ナヌンバ [Nanumba] は独自の長い伝統のある首長制を持ち, コンコンバ族とコンコンバ族が耕作する土地に対する宗主権を主張している。土地と政治的代表権の問題に関する根本的な不一致は, コンコンバ族とナヌンバ族, その同盟民族であるダゴンバ族の間の血なまぐさい衝突につながっている。

ゴンジャ族はナヌンバ族とダゴンバ族を支持している一方で, バサリ族 [Basari], ナウリ族 [Nawuri], ンチュムル族 [Nchumuru] などの似たような分散型構造を持つ近隣の民族集団はコンコンバ族の味方をしている。マヌンバ族, ダゴンバ族, ゴンジャ族は, コンコンバ族を自分たちの臣民である, つまり自分たちの土地に定住し, 何世紀にもわたって花嫁や無償労働, 作物, 家畜などの貢物を献じてきたよそ者であると主張している。コンコンバ族は, ダゴンバ族とその同盟民族らが先祖代々のコンコンバ族の土地を占有してきたことのみを理由に, 自分たちが「臣民」とみなされたと述べている。コンコンバ族はガーナ北東部とトーゴ北西部の先住民であると主張しているが, これは歴史家や人類学者によって支持されている。ダゴンバ王国史によると, ヤ・ナ (ダゴンバ族伝統会議の議長) の居城であるイエンディ [Yendi] は, ダゴンバ王家が奪取した時にはコンコンバ族の町であったとされている。コンコンバ族の祖先をたどると, コンコンバ族は必ず地面の

穴から来たと言うが、ナヌンバ族、ダゴンバ族およびゴンジャ族は、現在のブルキナファソ北部から南に向かって侵略してきた騎馬隊を率いた集団の中に祖先がいることがわかる。

大首長がいないということは、コンコンバ族の政治力と土地の権利が限られていることを意味する。ノーザン州首長議院〔Northern Region House of Chiefs〕は、開発や政府公金の分配において重要な意思決定を行う主要な政治機関であるが、彼らは代議員を持たない。国の機関は首長から採用し、ノーザン政府の構成員はナヌンバ族、ダゴンバ族、マンプリシ族の出身者である。しかしながら、コンコンバ族は、自分たちが首長の肩書きを持つことから不当に排除されていると感じており、今では自分たちの首長権を求めている。彼らは、1992年に支援した国民民主会議(NDC)が彼らの要求に好意的に答えなかったことに憤りを感じていた。1990年代半ばになると、コンコンバ族、ナヌンバ族、ダゴンバ族の間で激しい衝突が起こり、犠牲者の数が激増した。ホロホロチョウの価格をめぐる市場での争いが、1994年から1995年にかけてビンビラ〔Bimbilla〕の町を中心に激しい暴力へと激化していった。推定で2,000人の命が奪われ、20万人が避難し、400以上の村が破壊された。

(2) 北部の諸民族

<2024年7月11日更新>

ア [RRTA「カントリーアドバイス - ガーナ \[GHA37075\] : Yarigungu – Bawku District – Kusasi people – Kusasi chieftaincy – Hausa language – KusasiMamprusi conflict – Tamale – Dagomba people」](#) (2010年8月24日) <ecoi.net 収録>

7. ダゴンバ族〔Dagomba〕はクサシ族〔Kusasi〕の一派か？

ダゴンバ族とクサシ族は、いずれもモール・ダグボン族系に属する。この族系は、ガーナで2番目に大きく、「その多くが北部3州におり、おおまかな関連を有す(10の)下位民族集団」で構成される。(北部3州とは、)ノーザン州、アッパーイースト州およびアッパーウエスト州である。ダゴンバ族とクサシ族に類似性は見られるが、ダゴンバ族の方がマンプリシ族〔Mamprusi〕とより緊密に関連していると(複数の)情報源が指摘している。

ダゴンバとクサシ

ダゴンバ族とクサシ族は伝統的にガーナ北部の農耕民族である。いずれの民族集団も父系であり、ダゴンバ語であるダグバニ語〔Dagnani〕はクサシ族のクサール語と類似しており、Ethnologue.comによると、クサール語との「語彙的な類似性」は89%に達している。この2つの民族集団間の顕著な違いは、ダゴンバ族の約60%がイスラム教徒と見なされるのに対し、クサシ族のほとんど(88%)は伝統宗教を信仰しており、イスラム教徒は7.5%のみである。さらに、クサシ族の人口はアッパーイースト州に集中しているが、ダゴンバ族の「根拠地」はそれより南方のノーザン州にあり、特にタマル市〔Tamale〕、トロン〔Tolon〕、サベルグ〔Savelugu〕、イエンディ〔Yendi〕、グシェグ〔Gushegu〕、ザブズグ〔Zabzugu〕およびサボバ〔Saboba〕

の7つの行政地域にある。

ダゴンバとマンプルシ

クサシ族とダゴンバ族はいずれもモール・ダグボン族系の民族集団であるが、(複数の)情報源によると、ダゴンバ族の方が別のモール・ダグボン族系の民族集団であるマンプルシ族とより緊密に関連している。例えば、ダゴンバ族に関するGhanawebのウェブサイトでは、「たとえ」ダゴンバ族とマンプルシ族が現代においては別個の民族集団であるように見えても、「彼らはまだお互いを同一のものとして依然見なしている」り、人類学者のベルンハルト・ビアリッヒ [Bernhard Bierlich] は次の通り述べている。

ダゴンバ族は…自分たちをマンプルシ族やモシ族に最も近く、いとこ(兄弟の息子)として考えている。彼らは、同じ神話上の祖先から血統を分かっていると述べている。…

イ MRGI「マイノリティ世界要覧 - 概要 - 2015年 ガーナ - コンコンバ族」(2015年6月15日) 米国司法省

プロフィール

ガーナ北部には約50万人のコンコンバ族 [Konkomba] (Ethnologue, 2003) が住んでおり、その多くはイスラム教徒である。彼らは大首長を持たずに宗教的指導者を持ち、政治権と土地の権利が限定的である。

歴史的な背景

ガーナでは、コンコンバ族 [Konkomba] は大首長制 (Nas) を持たないことにより周縁化されてきた。しかし、ダゴンバ族 [Dagomba]、ゴンジャ族 [Gonja]、ナヌンバ [Nanumba] は独自の長い伝統のある首長制を持ち、コンコンバ族とコンコンバ族が耕作する土地に対する宗主権を主張している。土地と政治的代表権の問題に関する根本的な不一致は、コンコンバ族とナヌンバ族、その同盟民族であるダゴンバ族の間の血なまぐさい衝突につながっている。

ゴンジャ族はナヌンバ族とダゴンバ族を支持している一方で、バサリ族 [Basari]、ナウリ族 [Nawuri]、ンチュムル族 [Nchumuru] などの似たような分散型構造を持つ近隣の民族集団はコンコンバ族の味方をしている。マヌンバ族、ダゴンバ族、ゴンジャ族は、コンコンバ族を自分たちの臣民である、つまり自分たちの土地に定住し、何世紀にもわたって花嫁や無償労働、作物、家畜などの貢物を献じてきたよそ者であると主張している。コンコンバ族は、ダゴンバ族とその同盟民族らが先祖代々のコンコンバ族の土地を占有してきたことのみを理由に、自分たちが「臣民」とみなされたと述べている。コンコンバ族はガーナ北東部とトーゴ北西部の先住民であると主張しているが、これは歴史家や人類学者によって支持されている。ダゴンバ王国史によると、ヤ・ナ (ダゴンバ族伝統会議の議長) の居城であるイエンディ [Yendi] は、ダゴンバ王家が奪取した時にはコンコンバ族の町であったとされている。コンコンバ族の祖先をたどると、コンコンバ族は必ず地面の

穴から来たと言うが、ナヌンバ族、ダゴンバ族およびゴンジャ族は、現在のブルキナファソ北部から南に向かって侵略してきた騎馬隊を率いた集団の中に祖先がいることがわかる。

大首長がないということは、コンコンバ族の政治力と土地の権利が限られていることを意味する。ノーザン州首長議院〔Northern Region House of Chiefs〕は、開発や政府公金の分配において重要な意思決定を行う主要な政治機関であるが、彼らは代議員を持たない。国の機関は首長から採用し、ノーザン政府の構成員はナヌンバ族、ダゴンバ族、マンプルシ族の出身者である。しかしながら、コンコンバ族は、自分たちが首長の肩書きを持つことから不当に排除されていると感じており、今では自分たちの首長権を求めている。彼らは、1992年に支援した国民民主会議（NDC）が彼らの要求に好意的に答えなかったことに憤りを感じていた。1990年代半ばになると、コンコンバ族、ナヌンバ族、ダゴンバ族の間で激しい衝突が起こり、犠牲者の数が激増した。ホロホロチョウの価格をめぐる市場での争いが、1994年から1995年にかけてビンビラ〔Bimbilla〕の町を中心に激しい暴力へと激化していった。推定で2,000人の命が奪われ、20万人が避難し、400以上の村が破壊された。

ウ [RRTA「RRT 調査回答〔GHA34725〕：国民民主会議（NDC） - 2008年選挙 - 民族紛争」（2009年4月16日）〈ecoi.net収録〉](#)

...

クシミ族〔Kusimi〕などは、その祖先がガーナの北東部や北西部からの「騎馬民族」や移民の侵略者であって、いわゆる無国籍の先住民族に遭遇したモール・ダバニ族系に起源を有するという説を再検証している。

...

モール・ダバニ族系は、モシ語とダゴンバ語を話し、この族系の構成民族はいずれも皆似たような言語を話す。現在のガーナのアップパーイースト州のボルガタンガ〔Bolgatanga〕に住むテレンシ族〔Tellensi〕、グレンシ族〔Gurensi〕およびナブダム族〔Nabdam〕は、似たような文化的特徴を持っていることから、植民地時代にはまとめてフラフラ族〔Frafra〕と呼ばれていた。この族系のその他の構成民族は、ダゴンバ族、ダガルティ族〔Dagarti〕、クサシ族、ナンカンニ族〔Nankanni〕、マンプルシ族、ブイルサ族〔Builsa〕、ワラ族〔Wala〕、モッシ族〔Mossi〕、ナヌンバ族〔Nanumba〕である。コンコンバ族〔Konkomba〕、ブモバ族〔B'Moba〕、バサレ族〔Basare〕（無首長地域）からなるグルマ〔Gurma〕族系は、ガーナ・トーゴ・ブルキナファソの国境の地域で生活している。第三の民族集団はグルシ/カッセン・イサル〔Grusi/Kassen-Isal〕語系の民族集団で、イサラ/シサラ族〔Isala/Sissala〕、カッセナ族〔Kassena〕のほか、タンポレンス族〔Tampolense〕、ヴァガラ族〔Vagala〕、モー族〔Mo〕（デゲ族〔Deghe〕）が含まれる。最後に、グアン〔Guan〕族系には、イーストゴンジャ〔East Gonja〕郡（現在のガーナ、図1）に住むゴンジャ族〔Gonja〕、ンチュムル族〔Nchumuru〕、ナ

ウリ族 [Nawuri] が含まれる。また、チョコシ族 [Chokosi] やブザンガ族 [Busanga] などの細分化された民族も存在する。チョコシ族は、ンジマ族 [Nzima] に似たアカン語方言を話す人々で、ダゴンバ郡の一部で生活しており、18 世紀にダゴンバ王国とマンプリシ王国に雇われた傭兵の子孫である。ブサンガ族はクサシ地区で生活し、マンデ語 [Mande] を話します。主な民族はブルキナファソ全域に住んでいる (Kusimi, John et al. 2006, 「ガーナ北部の紛争」, Vol. 1, No.2, pp 211-212 - http://www.igesip.org/asteriskos/1_2/galego/art12.pdf - 2008 年 3 月 3 日閲覧(別添 2))。

エ [RRTA 「RRT 調査回答 \[GHA34619\]: ガーナ - コンコンバ/ナヌンバ紛争 - ダグボン首長対立」](#) (2009 年 3 月 26 日) <ecoi.net 収録>

2000 年に出版された『和解・正義・共存：理論と実践』という書籍の第 9 章には、ナヌンバ族 [Nanumba] とコンコンバ族 [Konkomba] の対立の背景についての情報が書かれている。

伝統的にノーザン州の社会構造は、首長社会と無首長社会に分かれている。前者は、下級の族長から地域の首長、大首長、および、さらには王のように振る舞う大首長よりもさらに上位の存在といったヒエラルキーを持つ首長制を中心にした構造を持つ。ダゴンバ族 [Dagomba]、ナヌンバ族 [Nanumba]、ゴンジャ族 [Gonja]、マンプルシ族 [Mamprusi] の 4 つの民族は、このように組織されている。コンコンバ族 [Konkomba]、ナウリ族 [Nawuri]、バサレ族 [Basare]、ンチュムル族 [Nchumuru] などの無首長集団は、首長や首長制といった階層構造を持たない細分化された社会である。彼らの大部分は、ある土地に定住して肥沃度が低くなるまで耕作し、その後、しばらく休耕地となっていた他の地域に移動する移動性のヤマイモ農家である。

...

...14 世紀後半から 15 世紀初頭にかけて、先住民たちはこの地域を侵略され、マンプリグ [Manpurugu] 王国、ダグボン [Dagbon] 王国、ナヌン [Nanun] 王国、そしてゴンジャ王国といった伝統的な王国が設立された。新たな来訪者たちは政治権力を奪ったが、文化的には同化された。コンコンバ族は、ガーナ北部の「先住の」民族の中で最大の民族であることに留意することが重要である。

オ ● [IRBC 「クエリー回答 \[GHA104608.E\] Ghana: State involvement in chieftancy matters, including state protection available for people involved in chieftancy disputes」](#) (2013 年 10 月 1 日)

In a 29 September 2013 telephone interview with the Research Directorate, a research fellow at the University of Ghana's Institute of African Studies explained that the process of recognizing a chief can vary by region. Generally, the process in the North is referred to as "enskinment," as it requires the chosen candidate to sit on an animal skin (Research Fellow

29 Sept. 2013). In the South, it is called "enstoolment," as the chief is required to sit on a stool (ibid.). He noted that chieftaincy disputes arise when the process of making a chief has not been followed correctly (ibid.). According to the Research Fellow,

[n]ot just anybody can become a chief, if you do not come from a royal family, you are not supposed to become a chief. If kingmakers chose a non-royal, there could be a chieftaincy dispute. If 4 people are supposed to approve the selection of chief, and only 3 have given their approval, then the process has not been well followed. There could be a dispute in a situation where one party or one particular royal family monopolizes the power and doesn't allow another family to come into the process (if say two royal families alternate chieftaincies, and the one whose turn it is is not allowed to select a candidate).

...

Sources indicate that uncertainty surrounding succession rules is a factor that often leads to chieftaincy disputes (UN n.d.; Berekum Peace Committee 17 Mar. 2013; NHC and ZIF July 2011). An article in The Ghanaian Times states that chieftaincy disputes are often due to the "non-adherence to the laid down rules and procedures governing the selection, installation and enskinment [coronation] of chiefs" (9 Feb. 2011). An article published in the Nordic Journal of African Studies on the politicization of a chieftaincy conflict in Northern Ghana states that

[m]ost of the conflicts [in Northern Ghana] are typically succession disputes, involving two or more gates laying claim to a chieftaincy position or title. Such conflicts usually involve determining who is the best qualified person to occupy a particular position; which traditional rituals constitute the "enskinment" process and whether the individual selected has gone through the appropriate rituals administered by the traditionally designated persons. (Tonah 2012, 2)

...

(3) 北部における民族対立

<2024年7月11日更新>

① マンプルシ族＝クサシ族紛争

ア ●[RRTA「RRT 調査回答 \[GHA35336\]: Ghana- Bawku - Mamprusi - Kusasi - Conflict - Passports - State protection - Relocation」](#) (2009年10月9日)

<ecoi.net 収録>

The BBC reported that at least four people had died during fighting between members of the two groups in May of 2008 ('Ghana: Four killed in Ghana tribal clash' 2008, BBC, 6 May – Attachment 6). At the beginning of May 2009, The Chronicle reported that 28 people had been arrested for questioning following the shooting of two people in Bawku ('Ghana: Let's be sensitive with Bawku matters' 2009, All Africa [source: The Chronicle], 5 May – Accessed 3 September 2009 – Attachment 23). Further violence occurred a few weeks later, shortly after the visit of President John Mills to the area. ...

イ [RRTA「RRT 調査回答 \[GHA34725\]: 国民民主会議 \(NDC\) - 2008 年選挙 - 民族紛争」](#) (2009 年 4 月 16 日) <ecoi.net 収録>

...

クシミ族 [Kusimi] などは、その祖先がガーナの北東部や北西部からの「騎馬民族」や移民の侵略者であって、いわゆる無国籍の先住民族に遭遇したモール・ダバニ族系に起源を有するという説を再検証している。

...

モール・ダバニ族系は、モシ語とダゴンバ語を話し、この族系の構成民族はいずれも皆似たような言語を話す。現在のガーナのアップパーイースト州のボルガタンガ [Bolgatanga] に住むテレンシ族 [Tellensi]、グレンシ族 [Gurensi] およびナブダム族 [Nabdam] は、似たような文化的特徴を持っていることから、植民地時代にはまとめてフラフラ族 [Frafra] と呼ばれていた。この族系のその他の構成民族は、ダゴンバ族、ダガルティ族 [Dagarti]、クサシ族、ナンカンニ族 [Nankanni]、マンプルシ族、ブイルサ族 [Builisa]、ワラ族 [Wala]、モッシ族 [Mossi]、ナヌンバ族 [Nanumba] である。コンコンバ族 [Konkombaba]、ブモバ族 [B'Moba]、バサレ族 [Basare] (無首長地域) からなるグルマ [Gurma] 族系は、ガーナ・トーゴ・ブルキナファソの国境の地域で生活している。第三の民族集団はグルシ/カッセン・イサル [Grusi/Kassen-Isal] 語系の民族集団で、イサラ/シサラ族 [Isala/Sissala]、カッセナ族 [Kassena] のほか、タンポレンス族 [Tampolense]、ヴァガラ族 [Vagala]、モー族 [Mo] (デゲ族 [Deghe]) が含まれる。最後に、グアン [Guan] 族系には、イーストゴンジャ [East Gonja] 郡 (現在のガーナ、図 1) に住むゴンジャ族 [Gonja]、ンチュムル族 [Nchumuru]、ナウリ族 [Nawuri] が含まれる。また、チョコシ族 [Chokosi] やブザンガ族 [Busanga] などの細分化された民族も存在する。チョコシ族は、ンジマ族 [Nzima] に似たアカン語方言を話す人々で、ダゴンバ郡の一部で生活しており、18 世紀にダゴンバ王国とマンプルシ王国に雇われた傭兵の子孫である。ブサンガ族はクサシ地区で生活し、マンデ語 [Mande] を話します。主な民族はブルキナファソ全域に住んでいる (Kusimi, John et al. 2006, 「ガーナ北部の紛争」, Vol. 1, No.2, pp 211-212 - http://www.igesip.org/asteriskos/1_2/galego/art12.pdf - 2008 年 3 月 3 日閲覧 (別添 2))。

② コンコンバ族=ナヌンバ族紛争

ア [RRTA「RRT 調査回答 \[GHA34619\]: ガーナ - コンコンバ/ナヌンバ紛争 - ダグボン首長対立」](#) (2009 年 3 月 26 日) <ecoi.net 収録>

オックスフォード大学の博士課程研究生であるジュリア・ジョンソン〔Julia Jönsson〕の2007年2月付けの「不平等・人間の安全保障・民族研究センター」の論文には、1994年のホロホロチョウ紛争について次のように書かれている。

1994年、ノーザン州は独立ガーナでは過去に見られなかった規模の民族間紛争に陥った。ナヌンバ族、ダゴンバ族、ゴンジャ族がコンコンバ族と戦った結果、441の村々が破壊され、17万8000人以上が避難民となった（インターNGOコンソーシアム、mimeo）。少なくとも2,000人が命を落としたが（NPI/インターNGOコンソーシアム、mimeo）、人口180万人強の地域としては特に大きな死者数であった（ガーナ政府、2002年）。前述したように、大首長制の問題が紛争に至るまでの緊張の激化を加速させる主要な要因となった。

...

「ホロホロチョウ紛争」は、1994年1月31日にビンビラ〔Bimbilla〕近郊のナクペイリ〔Nakpayili〕市場で黒いホロホロチョウの売買をめぐるコンコンバ族とナヌンバ族の男性が口論したことがきっかけに暴力に火が付いた出来事からその有名な名称が取られた。口論はすぐに民族的な虐待、紛争の脅威にまで発展し、コンコンバ族の男性が指1本を切断する暴力に発展した。翌日、ケンカで負傷したコンコンバ族男性の息子が農場でそのナヌンバ族男性を探し出して射殺した後、ナヌン〔Nanun〕で大規模なコンコンバ族とナヌンバ族間の戦闘が勃発し、すぐにダゴンバ族やゴンジャ族の支配地域にまで広がった。

...

イ ●フリーダムハウス「[世界の自由 2019年版 - ガーナ](#)」（2019年2月4日）

…In June 2018, a clash over land in the Chereponi District, Northern Region, between members of the Konkomba and Chokosi ethnic groups led to at least two deaths and left several others wounded.

ウ 記事「[チェレポニの民族間暴力での死者が4人に](#)」 Prime News Ghana（2019年1月6日）

ノーザン州のチェレポニ〔Chereponi〕郡での民族間暴力による死者は4人に上った

...

新年になってから始まった暴力は、この地区の多数派であるコンコンバ族〔Konkomba〕と少数派であるチョコシ族〔Chokosi〕を巻き込んでいる。

チェレポニには、土地と政治的代表的権の問題をめぐる根本的な不一致によって引き起こされた波乱に満ちた暴力の歴史がある。

コンコンバ族とナヌンバ族〔Nanumba〕、その同盟民族であるダゴンバ族〔Dagomba〕との間には、これまでいくつかの衝突があった。

...

エ [記事「コンコンバ族とダゴンバ族の衝突:「冷静に」と内務相」Ghana Web \(2018 年 11 月 8 日\)](#)

アンブローズ・デリー [Ambrose Dery] 内務相は、ノーザン州のイエンディ [Yendi] でコンコンバ族 [Konkomba] とダゴンバ族 [Dagomba] の間の停戦を呼びかけた。

イエンディ市のナッパチ [Nakpachie] でこの 2 つの集団の衝突が発生し、1 人が死亡、2 人が重傷を負ったと報告されている。

この争いでは家屋約 5 戸が放火され、住民らは自宅からイエンディや他の周辺の町に避難を余儀なくされている。

...

オ [記事「アグボグブロシの衝突をめぐり IGP がダゴンバ族とコンコンバ族のリーダーに会うように命令」Citi 97.3 FM \(2017 年 4 月 12 日\)](#)

...

水曜日、アグボグブロシー [Agbogbloshie] のヤム・マーケット [Yam Market] でコンコンバ族 [Konkomba] とダゴンバ族 [Dagomba] の間で衝突が起こり、少なくとも 2 人が死亡したと伝えられた。

シティニュース [Citi News] によると、月曜の夜に始まったとされるこの衝突は、諸派の一つの構成員による携帯電話の盗難の疑いをめぐって、火曜日に激化したという。

...

カ [MRGI「マイノリティ世界要覧 - 概要 - 2015 年 ガーナ - コンコンバ族」\(2015 年 6 月 15 日\) 米国司法省](#)

歴史的な背景

...

…1990 年代半ばになると、コンコンバ族、ナヌンバ族、ダゴンバ族の間で激しい衝突が起こり、犠牲者の数が激増した。ホロホロ鳥の価格をめぐる市場での争いが、1994 年から 1995 年にかけてビンビラ [Bimbilla] の町を中心に激しい暴力へと激化していった。推定で 2,000 人の命が奪われ、20 万人が避難し、400 以上の村が破壊された。

③ **ダグボンの首長をめぐる争い**

ア ●CORI [「クエリー回答」](#) (2013 年 7 月 15 日) <UNHCR アーカイブ>

In December 2006 IRIN reported that there were a number of chieftaincy conflicts in Ghana, particularly in its three northern regions. In 2002 a chief was beheaded and 40 of his followers were killed, in 1994/5 200,000 people were displaced from Bimbilla after 2000 people were killed. In response to a chieftaincy feud in Bimbilla in 2006, the government responded by sending in troops to impose a month long dusk to dawn curfew,

...

Most notable is the unresolved Dagbon conflict that erupted in 2002 in the northern town of Yendi when the paramount chief of the Dagbon ethnic group was murdered along with 40 of his followers.

The killers, allegedly members of a rival Dagbon faction, have never been found and neither has the dead chief's head.

...

イ ●RRTA [「RRT 調査回答 \[GHA34619\] : ガーナ - コンコンバ/ナヌンバ紛争 - ダグボン首長対立」](#) (2009 年 3 月 26 日) <ecoi.net 収録>

Dagbon Chieftaincy Conflict

A paper presented by Dr Isaac Olawal Albert at the 15th Annual Africa/Diaspora Conference in April 2006 provides the following summary of the Dagbon Chieftaincy dispute:

It started in the pre-colonial period in Ghana's history but became a major crisis in the post colonial period. The Dagomba people of the Dagbon kingdom are the single largest ethnic group in Northern Ghana. The capital city of the kingdom is Yendi, where the Ya-Na who is the traditional head of the people resides. The main issue in the Dagbon crisis, which started in the pre-colonial period in the history of Ghana, is the rotation of chieftaincy power between two rival sections of the Dagbon royal family. The rivalry between the two ruling houses ["Gates"] started in the nineteenth century following the death of Ya-Na Yakubu. He was succeeded by his son Abdullahi and then another son, Andani. Trouble started in 1899 when Andani died. The problem had to do with whether Andani should be succeeded by his own son or the son of his brother, Abudulahi.

This conflict is compounded by another major problem: "there is no agreement over who has the right to select a successor, and...which particular act in the installation ceremony makes one a Ya-Na" [Tsikata and Seini 2004:42] (Albert, Dr Isaac Olawale 2006, 'From "Owo Crisis" to "Dagbon Dispute": Lessons in the Politicization of Chieftaincy Disputes In Modern Nigeria and Ghana', Presented at the 15th Annual Africa/Diaspora Conference, 28 April, Sacramento State University, p.7 http://www.csus.edu/org/capcr/documents/archives/2006/ConferenceProceedings/Owo_Dagbon%20.pdf – Accessed 24 April 2009 – Attachment 18).

...

Dr Isaac Olawal Albert reports that the “latest in the violent encounters between the Andani and Abudu ruling houses in Dagbon” occurred in Yendi from 25-27 March 2002 and resulted in the death of the Ya-Na Yakuba Andani II and thirty other people. The Ghanaian Government declared a state of emergency in the Dagbon area which helped to restore peace:

The Abudu Gate most likely saw the victory of NPP [New Patriotic Party] in the 2000 elections as an opportunity to boost its political image and re-awaken the chieftaincy dispute that was in abeyance.

...One of the steps taken by the Abudus was to start contesting the powers of the seating Ya Na to unilaterally control certain festivals and ceremonies, most especially the traditional Bugum and the Eid-ul-Adha, in the kingdom. The celebration of the two festivals in 2002 created a lot of problems. The Eid-ul-Adha was the first to be celebrated. It was celebrated on two separate days. Bolin Lana and his supporters took the first turn. The Andanis followed the next day. The latter however rejected the formal security cover and protocol offered by the police for the ceremony in protest against similar privileges granted the Bolin Lana the previous day. The Ya-Na saw the separate celebrations and the officialdom that characterised the previous day’s event as an open affront to the office of the Ya-Na.

The events surrounding the Eid-ul-Adha escalated the conflict between the ruling houses. As the community prepared for the Bugum festival in March 2002, the two sides piled up arms and ammunition, trained their warriors, and mobilised as much support as they could. In response to the available security reports, the government had to put off the festival and impose a dusk to dawn curfew on Yendi from March 20 -26, 2002. This further heightened tension. The Abudus were happy that they had scuttled the efforts to celebrate the festival; the Andanis on the other hand were unhappy that their powers had once again been successfully eroded. Troubles started in the evening of March 24, 2002 when the Regional Minister, Prince Imoru Andani [a member of the Andani family and who was hitherto absent from his region when the curfew was imposed] came back to reverse the order [p. 67]. As the Andanis rejoiced, they were attacked by Abudu youths. The battle was gradually taken to the Gbewaa palace and in the process Ya-Na Yakubu Andani II was killed and his head severed from his body and taken away by his assailants (Albert, Dr Isaac Olawale 2006, ‘From “Owo Crisis” to “Dagbon Dispute”’: Lessons in the Politicization of Chieftaincy Disputes In Modern Nigeria and Ghana’, Presented at the 15th Annual Africa/Diaspora Conference, 28 April, Sacramento State University, pp.10-11

http://www.csus.edu/org/capcr/documents/archives/2006/ConferenceProceedings/Owo_Dagbon%20.pdf – Accessed 24 April 2009 – Attachment 18).

...

An article dated 13 April 2006 in BBC News reports that “after four years of uncertainty”

Ya Na Yakubu Andani II was buried:

The Ya-Na's burial follows a long and bloody dispute between two rival clans over who should become regent, resolved only by means of a compromise deal that offered some benefit to both the Andani and the Abudu clan.

Until this issue had been resolved, the slain ruler could not be laid to rest.

In terms of the deal, his first son, Kankupya Na Abdullai Andani, a 40-year-old primary school teacher, is now to be named regent.

...As soon as the regent takes office, he will run the affairs of the Dagomba Kingdom along with a council of six elders: three each from the Andani and Abudu clans or "gates" in an interim mandate.

Together, they will determine who becomes the next Ya-Na. Although succession rotates between the two gates, a bi-factional "road map" reached with mediators makes either gate eligible because Yakubu Andani didn't die a natural death.

Having a shot at providing a successor satisfies both sides. In addition, the burial and naming of a regent satisfies the Andanis.

The Abudus also take home a sweetener. Ya-Na Yakubu's predecessor, Mahamadu, who was an Abudu, and who was removed in the mid-70s from "the skin" – the symbol of authority on which the Kings sit – is to be restored posthumously as a Ya-Na ('Ghana king's burial ends long feud' 2006, BBC News, 13 April <http://news.bbc.co.uk/2/hi/africa/4906764.stm> – Accessed 24 March 2009 – Attachment 26).

...

The Daily Graphic reports that supporters of the Andani and Abudu factions clashed at the Manhiya Palace in Kumasi on 19 April 2008 when the Committee of Eminent Chiefs met with leaders of the two gates:

...

The committee of eminent chiefs had met on the first of a three-day deliberation on the late Ya Na Mahamadu Abdulai's funeral, which has been planned to take place at the Gbewaa Palace (Boadu, Kwame Asare 2008, 'Andani, Abudu Factions Clash', Daily Graphic, 21 April, Modern Ghana website http://www.modernghana.com/news/163271/1/andani-abudu_factions-clash.html – Accessed 24 March 2009 – Attachment 31).

...

ウ ●RRTA [「RRT 調査回答 \[GHA35095\] : Dagbon chieftaincy dispute - Andani and Abudu - December 2008 Elections: results & violence - NPP supporters - Internal relocation」](#) (2009年7月30日) <ecoi.net 収録>

The Economist reports on the “latest flare-up in tensions” between the Andani and Abudu in northern Ghana:

The latest flare-up in tensions came after the now NDC-controlled Northern Regional Security Council (Regsec) allowed a senior Andani member to lead in the rehabilitation of the royal mausoleum, a location sacred to both clans. The Abudus perceived this move as the tacit endorsement by the NDC government of the Andanis to select the next king of Dagbon, a position which has remained vacant following the tensions stemming from events in 2002. The Abudu accused the regional minister of security, Stephen Sumani Nayina, of bias and demanded his removal from office. Mr Nayina responded by explaining that the rehabilitation had been initiated by the Andani as urgent action was required to stem the deterioration of the mausoleum, which could be lost entirely if action was not taken now. Mr Nayina stated that Regsec was committed to the peace process currently being carried out by the Committee of Eminent Chiefs, but warned that any tribe resorting to violence would be dealt with decisively (‘Ghana politics: Tensions in the Dagbon region are reignited’ 2009, Economist Intelligence Unit – ViewsWire, 9 June – Attachment 3).

...

エ [IRBC 「クエリー回答 Ghana: 1\) Information on chieftaincy succession among the Dagomba tribe and whether chieftancy is transferred paternally or maternally; 2\) Information on the」](#) (1992 年 5 月 1 日) <UNHCR アーカイブ>

For the chiefly class, the important kinship unit is a descent group known as the dang, composed of all descendants of a single grandfather or great-grandfather through both male and female lines. In the centralized Dagomba state, only the sons of a previous paramount chief, the ya-na, may rise to that office, which is filled in rotation by one of the three divisional chiefs.

オ ●記事 [「Yaa Naa Investiture: Meet King Abubakari Mahama II, di new Dagbon overlord for Ghana」](#) (2019 年 1 月 25 日)

Friday dey mark di beginning of peace for di people of Yendi dem dey outdoor, Yaa Naa Abubakari Mahama as new Dagbon king.

...

Dem born di new Ya-Naa 1939 for Yendi, he be di second child of Queen Duhili Ayishetu, daughter of Kulunkpe-Naa Abukari.

He be di son of Ya-Naa Mahama II and grandson of Ya-Naa Andani II. He also be di paternal uncle to late Ya-Naa Yakubu II

Before dem make am Paramount Chief of Savelugu, den Naa Mahama be chief of

Kponkpano, which dey close to Yendi.

カ ●記事「[Dagbon Traditional Council adopts new constitution to govern its affairs](#)」
CITI News Room (2022年10月20日)

The Dagbon traditional council has adopted a new constitution to replace the 90-year-old constitution, which was seen by stakeholders as outmoded.

…As part of efforts to consolidate the peace and reconciliation of Dagbon after nearly forty years of turmoil, the overlord of Dagbon, Ya Na Abukari set up the Dagbon Constitutional Review Committee to review the Dagbon constitution which was said to have outlived its usefulness since the last review in 1930 and contributed to a series of chieftaincy succession disputes and land disputes in the area.

The revised constitution provides clear succession paths to all the skins in Dagbon and recognises Karaga, Savelugu and Mion as the only skin gates to the Dagbon Nam in Yendi.

④ ドロボ族＝ジャペクロム族紛争

ア ●記事「[The Japekrom-Drobo Conflict And The Costs To Indigenes](#)」The Publisher
(2019年9月26日)

On Thursday, January 31, 2019, Ghana’s Minister for the Interior was compelled to review its curfew on Drobo, Japekrom, Babianiha, Kwasibourkrom, Mpuasu, Basekrom, Kojokeseokrom and Katakryiekrom in the Jaman South Municipality of the Brong Ahafo Region, from 6:00 pm to 6:00 am following fresh violent attacks in the area.

These violent clashes aren’t particularly new, as they have been reported in the media as far back 2000. The latest incident started in October 2018, when a vile clash ensued between the peoples of Drobo and Japekrom, leading to the death of two persons, with 14 others sustaining various degrees of injuries.

…

The protracted nature of the conflict has resulted in series of reprisal attacks by either party in a bid to even scores. In one of such attacks on April 3, 2018 as reported by graphic.com, about 10 unidentified armed men, entered Drobo to destroy a fence, amidst indiscriminate shooting, prompting some youth of Drobo to fight back in self defence.

…

Such fears have informed the decisions of many youth from Drobo, Japekrom, Babianiha, Kwasibourkrom, Mpuasu, Basekrom, Kojokeseokrom, Katakryiekrom and its environs to migrate to Accra, Ghana’s capital city.

To some, even Accra does not bode well for them and thus take the perilous journey to Libya in a bid to reach Europe or the US to seek political asylum there. For the same reason,

others trek to Libya using the desert route or the Mediterranean Sea with the hope of reaching Italy or Spain eventually. The related horrific tales, including enslavement, torture and deaths, are known to many.

...

(4) 首長位の継承

<2024 年 8 月 29 日追加>

- ア ●IRBC [「Ghana: State involvement in chieftaincy matters, such as blood rituals for deceased chiefs and their successors, including legislation; consequences of divulging a secret ritual to another member of the same ethnic group, including the Kotokoli in the Volta region; state protection available to individuals that do not comply with chieftaincy rules and traditions \(2014-April 2017\)」](#) (2017 年 5 月 2 日) <UNHCR Web Archive>

The Professor of political science stated that, to his knowledge, "one is free to accept or refuse a chieftaincy position in any part of Ghana" and that state protection is therefore not needed in this field (Professor of political science 15 Apr. 2017). Similarly, according to the social anthropologist, the "recalcitrant individual may be persuaded to accept the office but no one to my knowledge can be compelled to accept the office" (Social anthropologist 17 Apr. 2017). The Professor Emeritus similarly stated that "[n]obody would be penalized for not wanting the job" (Professor Emeritus 19 Apr. 2017).

The Senior Lecturer stated that "[t]here is no physical punishment for refusing a traditional position" but that

[t]radition hardly allows an unwilling chieftaincy candidate to have his way simply because the candidate's refusal to accept a chieftaincy position is a denial of a whole family, or section of it (ruling/royal gate) of such an opportunity and subsequently, denies such a family or a section of it the opportunity to present candidates for the particular chieftaincy position. (Senior Lecturer 14 Apr. 2017)

Concerning state protection for individuals who refuse a chieftaincy position, the Postdoctoral Fellow stated that, to his knowledge, "there are no protection systems in place" (Postdoctoral Fellow 20 Apr. 2017). Concerning consequences for refusing a chieftaincy position, such as ostracism or social chastisement, the Professor Emeritus stated the following:

There might be. In Ghana generally, in daily life, public order depends more on collective action than on policing ... So, for example, individuals (usually older women) may be identified as witches and abused accordingly. (Professor Emeritus 19 Apr. 2017)

- イ Beverly J. Stoeltje [「Asante Queen Mothers in Ghana」](#) (2021 年 3 月 25 日) <Oxford Research Encyclopedias>

To qualify as a chief or queen mother in this matrilineal society, a person must be descended from a royal ancestress in one's clan. As the royal genealogist, a queen mother has knowledge of who is qualified. When a chief's stool is vacant, the queen mother nominates a qualified individual for the position. She is allowed three nominations; if none are accepted by the elders (who must provide a reason), they will make a decision. Nevertheless, the person must qualify as a member of the royal family. At the level of the king, members of the Traditional Council and numerous other influential individuals are also involved.

It is widely claimed that a chief, with his elders, chooses a queen mother from among those qualified by descent. Whether a chief or the elders have greater influence depends on the specific situation. Nevertheless, a pattern set by tradition determined that a queen mother's eldest daughter will likely become the queen mother when the stool is vacant, and that practice continues though it is not a requirement. In the 21st century, influential individuals, the media, the government, or local politicians may exert an influence on the selection process of either of the positions. With regard to this procedure and to many others, paramountcies exhibit differences from one another depending on their individual histories.

[注 3]

...

Once a chief or queen mother is enstooled, he or she occupies the stool for life. However, should a queen mother or chief be guilty of a violation, the individual can be removed from the position in a process called "destoolment" (also "deposed" and "removed"). Such cases have been rare for queen mothers but not unusual for chiefs. All of these procedures are embedded in considerable ambiguity, creating a vulnerability that attracts conflict. Colonialism and modernity have affected the advisory role so significantly that a paradigm shift has occurred, creating a chasm in some instances. Challenges were cultivated under colonialism and its closely linked phenomenon, modernity, and incorporated into the modern state. [注 5]

...

All chiefs and queen mothers must qualify as members of the royal family in their town or paramountcy. As kinship is matrilineal, membership in a family is traced through the mother. The royal family, like all individuals, belongs to one of the eight or nine clans in the Akan societies. Identity is, then, defined by one's family (a lineage/abusua), a very large clan, and one's ethnicity or culture. The link to one's hometown proves to be another element of identity, and the chief and queen mother provide a strong link to the hometown.

[注 10]

...

※ 脚注の詳細は、原文をご覧ください。

13. 出入国および移動の自由

略称

| | |
|----------|---|
| ACCORD | オーストラリア出身国・庇護研究ドキュメンテーションセンター |
| ACLED | 武力紛争位置・事件データプロジェクト |
| AI | アムネスティ・インターナショナル |
| ARC | 難民調査センター |
| BAMF | ドイツ連邦移民難民庁 |
| CGRS | ベルギー難民及び無国籍者庁 |
| CIA | 米国中央情報局 |
| CNDA | フランス庇護権裁判所 |
| CORI | Country of Origin Research and Information (英国) |
| CRS | 米国議会調査局 |
| DFAT | オーストラリア外務貿易省 |
| DIS | デンマーク移民庁 |
| DRC | デンマーク・レフュジー・カウンスル |
| EASO | 欧州難民支援機関 |
| FIS | フィンランド移民庁 |
| HRW | ヒューマン・ライツ・ウォッチ |
| ICG | インターナショナル・クライシス・グループ |
| IDMC | 国内避難民監視センター |
| IRBC | カナダ移民難民局 |
| IRDC | アイルランド難民ドキュメンテーションセンター |
| ジェトロ | 日本貿易振興機構 |
| JICA | 国際協力機構 |
| Lifos | スウェーデン移民庁出身国情報データベース |
| Landinfo | ノルウェー政府出身国情報センター |
| MRGI | マイノリティ・ライツ・グループ・インターナショナル |
| OECD | 経済協力開発機構 |
| OFPRA | フランス難民・無国籍庇護局 |
| OHCHR | 国連人権高等弁務官事務所 |
| OSAC | 米国海外安全保障評議会 |
| RRTA | オーストラリア難民再審査審判所 |
| RSAA | ニュージーランド難民地位不服申立機関 |
| RSF | 国境なき記者団 |

| | |
|--------|---------------------|
| UKIAT | イギリス移民難民審判所 |
| UKUT | イギリス上級審判所 |
| UNHCR | 国連難民高等弁務官事務所 |
| USCIRF | 米国連邦政府国際宗教自由に関する委員会 |